

『華嚴經』と教育(四)

古田 榮作

要旨

善財童子の求道の旅は続く。既に二十名の善知識との巡り合いによって修行は十住・十行の段階を終えている。本稿では青蓮華香長者を皮切りに十人の善知識に巡り合い、教えを受けて、十廻向を学ぶ。すべての香のことに通じている青蓮華香長者、海産資源・海の氣候を熟知し、海路を知り尽く、海難を避け、安全で迅速な航海に長けている自在海師、世事を善法に導って巧みに処理する無上勝長者、世間に善根を長じさせる師子奮迅比丘尼、訪れる者を歓喜させ、欲を無くさせ、清浄な心にさせるといふ婆須蜜多女人、法を分別し、衆生に顕現し、一切諸佛を見知するという安住長者、衆生の悩み・願いを聞き届け、成就の道を示すといわれる觀世音菩薩、善知識に接し、佛のおられる所を護念し……、多聞多知が重要であるとする正趣菩薩、衆生を攝取饒益載育し、衆悪を遠ざけ、常に愛語で接すべきだとする大天、諸佛の自在神力を受持している安住道場地神が十廻向を教示する。安住道場地神は過去譚をもって善財に解き明かす。

十廻向を会得した善財は、更に十地の段階へと進む。この段階を教示する善知識は、婆娑婆陀夜神、甚深妙徳離垢光明夜神、喜目觀察衆生夜天、妙徳救護衆生夜天、寂靜音夜天、妙徳守護諸城夜天、開敷樹華夜天、願勇光明守護衆生夜天、妙徳円満林天、瞿夷女である。『華嚴經』の核心とされる十地に関することの多数を「入法界品」では神・天に教示させていることも特筆すべきである。本稿では十地を教示する善知識のうち願勇光明守護衆生までの五人の善知識との出会いを考察した。

キーワード…善財童子、善知識、十廻向、十地

はじめに

『大方廣大佛華嚴經』（通称『華嚴經』）は、代表的な大乘佛典の一つであり、宇宙的なスケールで、大宗教（歌）劇の構想のもとに、佛の悟りの世界とそこに至る菩薩の道を詳細に説き示す經典であり、悟りに導く佛智を説いたものである。

これまで考察してきた『華嚴經』⁽¹⁾は、悟りへの過程を明らかにするとともに、その過程を実際に歩むことになる善財童子の宗教的人格の完成の過程を示すものである。『華嚴經』「入法界品」は善財童子を主人公とするビルドゥルング・ロマンであるとの説に基づき、宗教的人格完成の過程を広く人格完成の過程と見なすことはできないかというのが、一連の論考の基本的視点である。残念ながら前稿までは論を急ぐあまりに善財童子の修行の深化を考察するのみで、本編ともいべきそれ以前の悟りへの考察との関連をないがしろにする傾きがあった。

善財童子の修行の過程を今一度振り返ってみよう。莊嚴幢姿羅林の中の大塔廟で修多羅を説いていた文殊師利菩薩は「知覺城大衆集已」。「隨其所應。以大慈力令彼清涼。大悲現前將爲說法。」⁽³⁾と思惟し、更に善財童子を見つけ彼の出生譚、その名の由来を聞き、彼を観察して「吾當爲汝說微妙法。」⁽⁴⁾「知善財等一切大衆聞說此法。皆大歡喜發菩提心。」と教示の開始を明らかにした。文殊師利菩薩は善財の類稀なる資質を見抜き、菩薩道を求めるために善知識（功德比丘）を訪ねるように勧め、ここに始教に当たる信の段階から十住の段階へと移る。『華嚴經』本編では十住は須彌山頂の忉利天会での「菩薩十住品」で説かれている。この会では法慧菩薩が佛の加被を受けて諸菩薩に対して初發心住、治地住、修行住、生貴住、方便具足住、正心住、不退転住、童真住、法王子住、灌頂住という十住を説く。⁽⁵⁾「入法界品」では、功德雲比丘から彌多羅尼童女までの十名の善知識は十住に該当する教えを善財童子に示している。⁽⁶⁾「表1参照」次々と出会う善知識への善財童子の質問の変化もそれぞれの善知識に求められる覺りの相によって変容したと思われる。

次の十住を本編では同じく忉利天会での「功德華聚菩薩十行品」で説かれ、功德林菩薩が菩薩善伏三昧より起ち、諸菩薩に対して歡喜行、饒益行、無恚恨行、無盡行、離癡乱行、善現行、無著行、尊重行、善法行、眞実行の十行を説く。⁽⁷⁾「入法界品」では、善現比丘以下隨順一切衆生出家外道にいたる十名の善知識は十行に該当する教えを示す。⁽⁸⁾「表2参照」

(1)

善財童子は南行し甘露味國に青蓮華香長者を訪ねる。善財は青蓮華香長者に「我已先發阿耨多羅三藐三菩提心。向無上道。志求一切諸佛智慧。欲滿一切諸佛大願。欲淨一切諸佛色身。欲淨一切諸佛法身。欲見一切諸佛智身。欲淨滿一切菩薩諸行。欲照一切菩薩三昧門。欲成就一切菩薩諸陀羅尼。欲悉除滅一切障礙。欲遍遊一切諸佛世界。而未知菩薩云何學菩薩行修菩薩道。生一切智。」と白し、それに対して青蓮華香長者は善財童子の發心を確認し讚えた上で「我能善知一切諸香。一切和香。一切熏香。一切塗香一切末香。一切香王。……如是等香。我悉了知。彼香生起。所行成就。具足清淨安穩。方便境界。行業根本。皆悉了知。善男子。人中有香。名大象藏。因龍鬪生。若燒一丸。興大光網雲。覆甘露味國。七日七夜降香水雨。若著身者身則金色。若著衣服宮殿樓閣。亦悉金色。若有衆生得聞此香。七日七夜歡喜悅樂。滅一切病無有狂橫。遠離恐怖危害之心。專向大慈普念衆生。我知彼已而爲說法。令無量衆生。於阿耨多羅三藐三菩提。得不退轉。」善男子。復有香。名牛頭栴檀。從離垢山王生。若以塗身火不能燒。復有香。名不可壞。從大海生。若以塗身。出妙音聲降伏怨敵。復有香。名蓮華黑沈水。從阿耨達池四岸邊生。若燒一丸。悉能普熏閻浮提界。若有衆生得聞此香。離一切惡具清淨戒。……復有香。名曰轉意。從化自在天生。若燒一丸。於化自在天。七日七夜雨莊嚴雨。善男子。我唯知此香。」と教え、南方の樓闍城に自在海師を訪ねるよう勧める。龍の鬪いによつて生じ、一丸を焼けば、大光網を興して甘露國を覆い、七日七夜香水の雨を降らし……また別の香は七日七夜、歡喜悅樂して一切病を滅し狂横なくし、恐怖危害の心を遠離し、専ら大慈に向い普く衆生を念う気持ちを生じさせる香、無量衆生に阿耨多羅三藐三菩提に於いて不退轉を得させる香、妙音聲を出し怨敵を降伏させ、また別の香は一切惡を離れ清淨戒を具させる、……あらゆる香を知り、その生起・所行・成就・具足・清淨・安穩・方便・境界・行業・根本をも悉く了知しており、を知る青蓮華香長者の教えは十廻向の「救護一切衆生離衆生相迴向」を教えるとされる。

本編では十廻向に関しては六欲天のうち「神々が満足している」とされる兜率天会の「金剛幢菩薩十迴向品」で説かれている。そこには「修學三世諸佛迴向。佛子。何等爲菩薩摩訶薩迴向。菩薩摩訶薩迴向有十。去來今佛悉共演說。何等爲十。一者救護一切衆生離衆生相迴向。二者不壞迴向。三者等一切佛迴向。四者至一切處迴向。五者無盡功德藏迴向。六者隨順平等善根迴向。七者隨順等觀一切衆生迴向。八者如相迴向。九者無縛無著解脫迴向。十者法界無量迴向。三世諸佛所共演說。」と十廻向の名が挙げられている。

善財童子は次に「觀察正道。専求正道。觀夷險道。垢淨道。安危道。復作是念。因善知識。得菩薩道諸波羅蜜道。攝取衆生入無礙法界。隨順一切衆生。除滅一切煩惱熾然一切邪見。拔一切不善刺。度一切生死海。必至一切智城。何以故。因善知識。得一切善根。因善知識。得一切智。」⁽¹²⁾と考えながら、樓閣城に自在海師を訪ねる。自在海師は善財童子の「我已先發阿耨多羅三藐三菩提心。而未知菩薩云何學菩薩行修菩薩道。」⁽¹³⁾という言に對して善財の發心を確認し讚えた後「乃能諮問我大乘妙寶。度生死海到一切智洲。得不可壞摩訶衍法。離二乘難住寂滅樂。遠離生死洄復流淵。逮得菩薩至處道法陀羅尼輪。菩薩莊嚴道。薩婆若道波浪。成就普法門。於一切法無所障礙。度一切智海。善男子。我成就大悲幢淨行法門。在此海邊樓閣城中。爲貧窮者修諸苦行。欲令一切隨意所求。悉充足已廣爲說法。皆令歡喜發起善根。長養功德智慧之藏。利菩薩根。發菩提心。淨菩薩直心。增益菩薩深心。出生長養大悲之力。除生死苦。遊生死海。而無疲倦。攝取衆生海。令住功德海。得一切法智海光明。見一切佛海。度一切智海。善男子。我住此城。如念思惟。如是正念。饒益衆生。善男子。我知海中一切寶洲。一切寶相。一切生寶。一切淨寶及不淨寶。知一切寶價。一切寶器。知一切寶隨所應用。知作一切寶。知一切寶境界。知一切寶光明。知一切龍宮殿滅一切龍難。知一切羅刹宮殿滅一切羅刹難。知一切大身衆生宮殿滅。一切大身衆生難。知趣知捨洄復恐怖能離波浪。知相水色。知日月星宿。知諸算數。知晝知夜。知刹那羅婆摩睺路。知去知住安危之法。知海船舶牢不牢法。明候風相。而廻轉之。了所至處。善男子。我已成就如是智慧。利益衆生故。入於大海。因爲說法。悉令歡喜離生死怖。入一切智海。竭愛欲海。逮得三世光明智海。度一切苦海。清淨一切衆生心海。嚴淨一切諸佛刹海。遍遊一切十方界海。無所障礙。知一切衆生諸根願海。隨順一切衆生行海。知一切衆生隨所應海。善男子。我就此大悲幢淨行法門。若有見聞憶念我者。皆悉不虛。善男子。我唯知此法門。」⁽¹⁴⁾と答える。自在海師は海難を防ぎ、船の安全・確実な航行に欠くことのできない航海術を身に着けているばかりでなく、海中資源の所在、その利用法をも熟知している、自在海師は衆生を利益せんために大海に入り、因つて法を説き、悉く歡喜させ生死の怖れを離れさせ、一切智海に入り、愛欲の海に竭して、三世の光明智海を逮得し、一切の苦海を度らしめ一切衆生の心海を清淨にし、一切諸佛の刹海を嚴淨し、遍く一切十方界の海に遊び、障礙する所なく、一切衆生の諸根願海を知り、一切衆生の行海に隨順し、一切衆生應海を知るようにできるのである。彼はこの大悲幢淨行の法門を成就したのであるとした上で、単に「我唯知此法門。」と「不壞迴向」を説くのである。その上で、彼は善財童子に無上勝長者を訪ねるよう勧める。

善財は城東の離憂惱妙莊嚴幢という名の林の中で多数の長者たちに囲まれて國事を理斷し説法している長者を見出した。五體投地を以つ

て敬礼した善財の「我是善財。我是善財。我已先發阿耨多羅三藐三菩提心。而未知菩薩云何學菩薩行修菩薩道。教化衆生。常見諸佛。諮問正法悉能受持諸佛法雲。專向一切諸方便門。於一切世界一切劫中。行菩薩行。知一切佛自在神力。能受一切諸佛所持。得諸佛力。」⁽¹⁵⁾との言に対して善財の発心を確認し讚嘆した上で「我成就至一切趣菩薩淨行莊嚴法門。無依無作神足之力。善男子。何等爲至一切趣菩薩淨行莊嚴法門。善男子。此三千大千世界一切阿脩羅世間。一切迦樓羅。地獄餓鬼。夜叉羅刹。鳩槃荼訶闍婆。人非人等世間。三十三天。須夜摩天。刪兜率天。乃至魔天世間。欲界所住一切生趣。一切天宮。一切龍宮。一切夜叉訶闍婆阿脩羅迦樓羅緊那羅摩睺羅伽等宮。人中國土城邑聚落。於中說法。滅除諍訟諸恚害心。悉解繫縛皆令出獄。離諸恐怖。滅不善業殺害衆生乃至邪見。斷諸王事及國土事。遠不善法。悉令衆生除滅諸惡。教以巧術及種種論。饒益一切皆令歡喜。隨順一切諸外道衆。現勝妙智遠離邪見樂於佛法。乃至梵天。廣爲說法。如此三千大千世界。乃至十方不可說不可說億那由他佛刹微塵等世界中。廣說正法。所謂佛法。菩薩法。衆生法。離世間法。聲聞法。緣覺法。說地獄餓鬼畜生閻羅趣法。現惡道苦。說諸天趣。現諸天樂。說世間法。顯菩薩道離生死惡。說一切智諸妙功德。滅愚癡苦及諸障礙。欲令衆生得離世樂。離諸虛妄解眞實法。遠離惡業滅諸煩惱。轉淨法輪。善男子。我唯知至一切趣菩薩淨行莊嚴法門。」⁽¹⁶⁾と有力者たちに取り囲まれて国事を理断していた長者は「斷諸王事及國土事。遠不善法。」と世事を善法に遵つて裁くことに長けていたが、「等一切佛迴向」を示す。

その次に善財童子が訪れたのは難忍という國の迦陵伽婆提という城の日光林中にいる師子奮迅という名の比丘尼である。比丘尼を取り巻く光景を「見此園林。皆是菩薩業行所成。出諸世間善根所起。供養不可思議諸佛所得。無能壞者。此皆師子奮迅比丘尼。了法如幻。長養功德藏善根所成。」⁽¹⁷⁾とか「見比丘尼遍處一切寶師子座。端嚴殊妙威儀庠序。其心寂靜調伏諸根。譬如龍象。如澄淨淵。如意寶珠。五欲不染猶如蓮華。心無所畏如師子王。安住淨戒不可傾動如須彌山。滅除衆生諸煩惱熱如涼香王。滅除衆病如良藥王。見者不虛。如婆樓那天。長養善根。猶如良田。見處一座。淨居天衆眷屬圍遶。爲說無盡法門。又見處座。悅樂梵等梵衆圍遶。」⁽¹⁸⁾とか「見師子奮迅比丘尼諸奇特事。所謂園林資生之具。經行威儀。寶師子座。大衆眷屬。諸妙功德。神力自在。微妙音聲。如是一切諸奇特事。又聞微妙清淨音聲。宣揚讚歎不思議法。」⁽¹⁹⁾とか表現されている。比丘尼は善財童子の「我已先發阿耨多羅三藐三菩提心。而未知菩薩云何學菩薩行修菩薩道。唯願大聖。爲我解說。」⁽²⁰⁾という要請に「我成就菩薩一切智底法門。」と答え、善財の「如此法門體性云何」⁽²¹⁾との更なる問いに「此法門者。智光莊嚴。於一念中普照三世。」⁽²³⁾と応じ、善財の「此智光莊嚴法門境界云何」⁽²⁴⁾との再度の尋ねに「入此法門。現前正受一切法林三昧時。十方一切世界諸佛。處兜率

天者。於彼一一佛所。從其自身。出生不可說不可說佛刹微塵等摩菟摩身。恭敬禮拜。又齋不可說不可說佛刹微塵等華香纓珞。諸妙寶鬘。末香塗香。衣蓋幢幡種種寶華雲。乃至一切莊嚴具雲。寶網寶帳莊嚴網等種種寶座。以如是等諸供養具。供養如來。如兜率天所興供養。降神母胎。出生在宮。捨家學道。詣菩提樹。成最正覺。轉淨法輪。在諸天上人非人中。乃至般涅槃所興供養。亦復如是。若有衆生。知我供養。皆於阿耨多羅三藐三菩提。得不退轉。其有衆生來至我所。卽爲彼說般若波羅蜜。我不起衆生想。不取衆生相。知一切語言而不著語言。見一切佛不取佛相。深解法身故。受持一切諸佛法輪。而亦不取法輪之相。解了諸佛眞實相故。於念念中。悉能充滿一切法界。而亦不取法界之相。了一切法猶如幻故。⁽²⁵⁾とした上で「我唯知此菩薩一切智底法門。」⁽²⁶⁾と示す。智光莊嚴で、一念の中に普く三世を照らす、菩薩の一切智底の法門を成就した比丘尼は、その法門に入ること、現前に一切の法林三昧を正受して、十方一切世界の諸佛、兜率天に處する者は、彼の一の佛の所で其自身から不可說不可說の佛刹微塵に等しい華香纓珞・諸妙寶鬘・末香塗香・衣蓋幢幡種種寶華雲、乃至一切莊嚴具雲・寶網寶帳・莊嚴網等の種種寶座を齎し、是の如き諸の供養具を以て如來を供養し、また兜率天に興す供養の如く、神を母胎に降し、王宮に出生し、家を捨て道を學び、菩提樹に詣り最正覺を成じ、淨法輪を轉じて、諸の天上人非人中に在り、乃至般涅槃の興す所の供養も亦同様にする。釋尊の供養法と同様の供養をする衆生は阿耨多羅三藐三菩提に於て不退轉を得るであろう。深く法身を解し、諸佛の眞實相を解了し、一切法を猶幻の如しと了っているがためである。奇特事とされる不可思議な光景を現出する比丘尼は「至一切處迴向」を示したのである。

善財の足はより深くより高邁な悟りを求めて師子奮迅比丘尼の勧めた險難國の寶莊嚴におられる婆須蜜多女人の所に向かう。彼女は善財の「我已先發阿耨多羅三藐三菩提心。而未知菩薩云何學菩薩行修菩薩道。」⁽²⁷⁾という求めに應じて「我已成就離欲實際清淨法門。若天見我我爲天女。若人見我我爲人女。乃至非人見我。我爲非人女。形體殊妙。光明色像殊勝無比。若有衆生。欲所纏者。來詣我所。爲其說法皆離欲。得無著境界三昧。若有見我得歡喜三昧。若有衆生。與我語者。得無礙妙音三昧。若有衆生。執我手者。得詣一切佛刹三昧。若有衆生。共我宿者。得解脫光明三昧。若有衆生。目視我者。得寂靜諸行三昧。若有衆生。見我頻申者。得壞散外道三昧。若有衆生。觀察我者。得一切佛境界光明三昧。若有衆生。阿梨宜我者。得攝一切衆生三昧。若有衆生。阿衆鞞我者。得諸功德密藏三昧。如是等類一切衆生。來詣我者。皆得離欲實際法門。」⁽²⁸⁾と示し、「昔於何所種諸善根。修何等業得此法門。」⁽²⁹⁾との問いに「過去有佛。號曰常住如來應供等正覺。出興于世。彼佛哀愍饒益諸群生故。入安樂城。足蹈門闕。卽時大地六種震動。其城自然奇妙廣博衆寶莊嚴。散諸雜華。自然演出娛樂之音。放大光明。一切

諸天充滿虛空。廣說如佛入城經中現奇特事。善男子。我於爾時爲長者婦。名曰善女。見如是等諸奇特事。從夫長者出於道巷。奉彼如來妙寶天冠。時文殊師利。爲佛侍者。爲我說法。發阿耨多羅三藐三菩提心。善男子。我唯知此離欲實際法門。⁽³⁰⁾と答え「若天見我我爲天女。若人見我我爲人女。」と女人に出会う者に応じて女人は姿を変え、また女人を來訪した者はその說法により欲をなくし實際の清淨な法門を得るとされ、彼女と語った者は無礙妙音三昧を得、彼女の手に触れた者は詣一切佛刹三昧を得、彼女と一宿を共にした者は解脫光明三昧を得、彼女を目視した者は寂靜諸行三昧を、……と不思議な力をもつ遊女であるが、彼女が教えたのは「無盡功德藏迴向」で、更なる修行のため、に首婆波羅城の安住長者を訪ねるよう勧める。

安住長者は善財の「我已先發阿耨多羅三藐三菩提心。而未知菩薩云何學菩薩行修菩薩道。」⁽³¹⁾という求めに應じて「我已成就不滅度際菩薩法門。住此法門。普見十方一切世界。去來今佛無涅槃者。除化衆生方便滅度。善男子。我開栴檀佛塔戶時。念念正受無盡佛性三昧門。於念中。得無量無邊勝妙諸法。」⁽³²⁾と普く十方一切世界に去來今の佛の涅槃されることの無いのを見、念ずると無量無邊勝妙諸法が得られると答え、更なる善財の質問の「此三昧者境界云何。」⁽³³⁾に「我入此三昧時。見此世界迦葉佛。……見如是等不可說不可說諸佛。閻浮提微塵等佛。乃至不可說不可說佛刹微塵等佛。見此諸佛。從初發心。神力自在。一切大願清淨妙行。諸波羅蜜。次第成就。菩薩諸地。得深法忍。降伏衆魔。長養成就自在菩提。淨諸佛刹。種種大衆。教化衆生。放大光明。轉淨法輪。神力變化。皆悉受持正念思惟。智慧分別。彼諸佛法顯現衆生。見知未來彌勒佛等一切諸佛。現在盧舍那佛等一切諸佛。亦復如是。如此世界見知十方三世一切諸佛聲聞緣覺菩薩。亦復如是。」⁽³⁴⁾とこれらの諸佛が初發心の時より神力自在で、一切の大願、清淨の妙行、諸の波羅蜜によつて次第に成就し、深法忍を得て衆魔を降伏し、自在の菩提を長養し成就し、諸の佛刹の種々の大衆を淨め、衆生を教化し、大光明を放ち、淨法輪を轉じ、神力變化されておられるを見奉り、皆悉く受持し正念し思惟し智慧により彼の諸佛の法を分別し、衆生を顯現し、未來の彌勒佛等の一切諸佛、現在の盧舍那佛等の一切諸佛を見知することも亦是の如し、十方三世一切諸佛・聲聞・緣覺・菩薩を見知することも同様であるとした上で、「我唯知此不滅度際菩薩法門。」⁽³⁵⁾と教示し、ここに「隨順平等善根迴向」が示されたのである。更に長者は南方の光明山の觀世音菩薩を訪ねなさいと勧告する。

光明山の山上より金剛寶座に結跏趺坐して無量の菩薩を恭敬し、圍繞されて大慈悲經を説かれておられる菩薩の姿を遙かに見て善財は「善知識者則是如來。善知識者一切法雲。善知識者諸功德藏。善知識者十力妙寶。善知識者難見難遇。善知識者無盡智藏。善知識者功德山

王。善知識者開發示導一切智門。能令一切入薩婆若海。究竟清淨無上菩提。⁽³⁶⁾との想いを抱いて菩薩に見える。菩薩自ら「善來童子。專求大乘攝取衆生。直心深心樂求佛法。長養大悲救護一切。向普賢行。清淨成滿一切大願。欲聞受持一切諸佛一切法雲。增長善根而無厭足。順善知識不違其教。從文殊師利智慧功德大海所起。成就善根。得佛勢力光明三昧。離懈怠心專求正法常見諸佛。遠離衆惡修諸善行。智慧成滿如虛空。」⁽³⁷⁾と善財に声を懸け、更に善財の「我已先發阿耨多羅三藐三菩提心。而未知菩薩云何學菩薩行修菩薩道。」⁽³⁸⁾という求めに応じて「乃能發阿耨多羅三藐三菩提心。善男子。我已成就大悲法門光明之行。教化成熟一切衆生。常於一切諸佛所住。隨所應化普現其前。或以惠施攝取衆生。乃至同事攝取衆生。顯現妙身不思議色攝取衆生。放大光網。除滅衆生諸煩惱熱。出微妙音而化度之。威儀說法。神力自在。方便覺悟。顯變化身。現同類身。乃至同止攝取衆生。善男子。我行大悲法門光明行時。發弘誓願。名曰攝取一切衆生。欲令一切離險道恐怖。熱惱恐怖。愚癡恐怖。繫縛恐怖。殺害恐怖。貧窮恐怖。不活恐怖。諍訟恐怖。大衆恐怖。死恐怖。惡道恐怖。諸趣恐怖。不同意恐怖。愛不愛恐怖。一切惡恐怖。逼迫身恐怖。愁憂恐怖。復次善男子。我出生現在正念法門。名字輪法門故。出現一切衆生等身。種種方便。隨其所應。除滅恐怖而爲說法。令發阿耨多羅三藐三菩提心。得不退轉。未曾失時。善男子。我唯知此菩薩大悲法門光明之行。」⁽³⁹⁾と大悲法門の光明の行を成就したと言明したうえで、その行を行なう時には、弘誓の願を發し、一切の衆生の險道の恐怖。熱惱の恐怖……を離れさせようと願ひ、現在正念の法門を出生させ、衆生と同じ身を出現して種々の方便によつてその所應に隨つて、恐怖を除去し、説法して阿耨多羅三藐三菩提心を發させ、不退轉を得させて未だ曾つて時をうしなうことがないと言明して「隨順等觀一切衆生迴向」を教示し、菩薩を取り巻く大衆の中にいる「正趣菩薩」の話聞くよう奨める。

正趣菩薩は善財の「我已先發阿耨多羅三藐三菩提心。而未知菩薩云何學菩薩行修菩薩道。」⁽⁴⁰⁾という求めに應じて、「善男子。我已成就菩薩善門速行法門。」⁽⁴¹⁾と応じ、善財の「於何佛所得此法門。所從來利此幾何。發來久如。」⁽⁴²⁾との問いに「善男子。此處難知。一切諸天人非人等所不能了。唯精進不退。近善知識。佛所護念。具足善根。淨正直心。得菩薩根。開智慧眼。多聞多知。菩薩境界。」⁽⁴³⁾と対応する。善財の更なる問いの「唯願大聖。爲我解說。我當承佛神力善知識力而得信解。」⁽⁴⁴⁾に答へ、「善男子。我所從來利。名曰妙藏。佛號妙德。於彼佛所得此法門。從彼發來。已經不可說佛刹微塵等劫。於一念中。行不可說佛刹微塵等步。一步過不可說佛刹微塵等世界。所經諸國佛皆現在。以一切菩薩諸供養具而供養之。悉能了知彼世界中諸群生海。分別諸根。隨其所應而爲說法。放大光網普照十方。出妙音聲演說正法。饒益度脫彼諸衆

生。乃至十方亦復如是。善男子。我唯知此菩薩普門速行法門。⁽⁴⁵⁾と受け答える。この問答の中に「如相迴向」が教示され、婆羅波提城の天を訪ねるよう勧める。

善財の「我已先發阿耨多羅三藐三菩提心。而未知菩薩云何學菩薩行修菩薩道。」⁽⁴⁶⁾という尋ねに応じて大天は長い手足で四海の水を掬い口を漱ぎ顔を洗い身を清めて金の華を善財に向かつて撒き散らした上で「善男子。菩薩難聞難見。乃是世間奇特之法。諸男子中分陀利華。爲衆生歸依。攝取饒益載育衆生。普照一切。顯現正道。遠離愚癡。爲衆生師。救護正法。爲衆生將救護安穩。悉令得至一切智城。具足成熟淨身口業。永離衆惡。於衆生類。常以愛語。隨其所應悉現其前。未曾失時。善男子。我已成就菩薩雲網法門。」⁽⁴⁷⁾と答え、菩薩はその声に接するものもその姿を目の当たりにすることも難しく、世間の奇特の法であり、諸男子の中の分陀利華すなわち白蓮華であり、衆生の歸依する所と爲り、衆生を攝取し・饒益し、載育するのであり、普く一切を照らし、正道を顯現し、愚痴を遠離し、衆生の師と爲り、正法を救護し、衆生の將と爲って教護安穩し、悉く一切の智城に至る事を得させ、身口の業を具足し成就して、永く衆惡を離れ、衆生の類に於いて常に愛語を以てその所応に随って、その前に現じて未だ曾って時を失わない。私は菩薩の雲網の法門を成就しているとするのである。善財の「此法門者境界云何。」⁽⁴⁸⁾に対して金銀等々の寶・華・香・衣・蓋・幢・幡を山の如く積み上げて善財に「善男子。汝取此諸物供養如來。惠施一切攝取衆生。悉令衆生。修檀波羅蜜。學檀波羅蜜。捨離一切。善男子。我以此物教汝惠施。教一切衆生亦復如是。悉令衆生以無貧善根普熏身心。近善知識。恭敬供養諸佛菩薩。出生長養一切善根。發阿耨多羅三藐三菩提心。復次善男子。若有衆生貧五欲者。爲彼顯現不淨境界。若瞋恚放逸憍慢諍訟。如羅刹鬼飲血食肉。悉教彼等修大慈悲。皆令永離瞋恚放逸。若懈怠者。爲現水火盜賊惡王怨敵等難。善男子。如是等類諸惡衆生種種方便滅不善根長養善根。除滅一切波羅蜜障礙怨敵。具足成滿諸波羅蜜。超出障礙得無礙法。善男子。我唯知此菩薩雲網法門。」⁽⁴⁹⁾と惡衆生にも種々の方便によって不善根を滅し、善根を長養し波羅蜜を妨げる怨敵を除滅して波羅蜜を具足して無の法を得させると菩薩の雲網の法門を教示する。この教示を通じて「無縛無著解脫迴向」が示され、この閻浮提の内の摩竭提の道場地神である安住道場地神を訪ねるよう勧告する。

安住地神は善財に「善來童子。汝欲自見曾於此處所種善根果報。不平。」⁽⁵⁰⁾と声を掛け、善財の「唯然欲見。」⁽⁵¹⁾との応答に「汝昔所種善根果報致此寶藏。自在隨汝。善男子。我已成就菩薩不可壞藏法門。我於然燈佛來。常護菩薩。修習菩薩行。深入智慧境界。盡其源底。大願成滿。

淨菩薩行。出生菩薩一切通明。具足菩薩諸力功德。成就菩薩不可壞法。遊諸佛刹。聞一切佛所授記法。轉一切法輪。一切修多羅法雲。以大
法光明教化衆生。受持諸佛自在神力。善男子。乃往古世。過須彌山微塵等劫。有劫名莊嚴。世界名月幢。佛號善眼。於彼佛所得此法門。修
習長養淨此法門。於其中間。常遇不可說不可說佛刹微塵等佛。彼諸如來。往詣道場自在神力皆悉奉觀。於此佛所修集善根。善男子。我唯知
此法門。」⁽³²⁾と教示し、菩薩不可壞藏法門を成就して……と菩薩行を實踐しており、諸佛の自在神力を受持しているとし、さらに過去譚に言
及して善根を修習したきたことを示して、「法界迴向」を示す。〔表3参照〕

(2)

善財は安住道場地神の勸告を受け入れ、迦毘羅婆の迦毘羅婆城に婆娑婆陀夜天を訪ねる。善財が婆娑婆陀夜天に見える情景は「日没未久。
隨順一切菩薩所教。一心欲見婆娑婆陀夜天。於善知識發如來想。普眼境界顯現諸方。智慧悉至一切境界。清淨法眼普見一切諸法界海。大智
慧眼觀察十方。見彼夜天。於彼城上虛空中住。處寶樓閣香蓮華座。身如真金目髮紺色。端嚴殊妙見者無厭。身服朱衣衆寶莊嚴。頂上結髮猶
如梵王。於其身上。現一切星宿及其光明。化度無量世界衆生。遠離惡道。於一毛孔。皆悉觀見所化衆生。或有生天。或得聲聞緣覺。修菩薩
行。種種方便。形色音聲。諸語言法。所說正教。化度衆生。隨所經劫。諸菩薩等。教化衆生。悉令修習菩薩諸行。勇猛精進修諸三昧諸神力
門。菩薩自在神力境界。菩薩所住。菩薩光明。菩薩奮迅。菩薩法門以化衆生。於一毛孔皆悉見聞。」⁽³³⁾と描かれている。日没後の薄明かりの
中に虚空中の夜天は寶樓閣の香蓮華に座し、身は真金の如く輝き目髪は紺色で端嚴殊妙で、朱色の衣服をまとい、数多の寶によつて飾られ、
髪を頭の上で束ねているのは梵王のようであり、その身は星宿がありとそれは光を發して、衆生を化度して……の表現は夜天の超人的能力
の示唆であろう。「我已先發阿耨多羅三藐三菩提心。信解因善知識得諸佛法。唯願天神。開示顯現一切智道。若有菩薩向此道者得十力地。」⁽³⁴⁾
との善財の言に促されて夜天は「善男子。敬善知識隨順其教。若有菩薩隨其教者。疾得阿耨多羅三藐三菩提。善男子。我已成就菩薩光明普
照諸法。壞散衆生愚癡法門。善男子。我於惡衆生發大慈心。於不善業衆生發大悲心。於修善衆生發歡喜心。於善惡衆生發無二心。於染汚衆
生發清淨心。於邪道衆生發正道心。於樂不淨衆生發樂淨心。於樂生死衆生發隨順法輪心。於樂聲聞緣覺衆生發安立一切智道心。善男子。我
常如是思惟教化衆生。於夜闇人靜鬼神盜賊所遊行時。比丘離威儀時。重雲煙塵昏蔽日月不見色時。若有衆生。在城邑聚落山巖曠野。八方大
海。乃至一切水陸衆生。於此衆生。以種種方便滅其恐怖。若有衆生。遭於海難雲難山難。大風洄復及以波浪。迷惑失道不見邊岸。遭如是等

種種海難。我於爾時。或作船形。或作馬王象王狗王阿脩羅王海神王形。作如是等形。方便度脫衆生海難。爲陸地衆生。或作淨月及諸星宿。炬火電光諸寶光明。天身光明菩薩光明。以如是等無量方便救護衆生。發如是心。我爲一切衆生常作歸依。除滅煩惱。令畏死者得無畏法。令貧窮者皆得富樂。爲在山衆生。或作果樹或作流泉。迦陵頻伽鳥等出妙音聲。或作山神或作平地。以如是等無量方便度脫衆生。發如是心。令諸衆生免此山難。又令一切越生死山。爲曠野衆生。種種方便令其悅樂。入正見道。除滅飢渴。於如是等無量難中。救衆生已。復作是念願令衆生速滅衆苦。究竟一切安穩智道。見樂著國土衆生受諸苦惱。種種方便滅其樂著。作如是念願。令衆生除五陰著。住一切佛薩婆若境。見著聚落衆生受諸苦惱。種種方便而爲說法。令其厭離以法攝之。復作是念。令一切衆生。離六入空聚超出生死。究竟得入一切智城。復次善男子。若有衆生。迷於十方。以東爲西。以西爲東。乃至以上爲下。以下爲上。爲此衆生。無量方便斷其迷惑。若欲出者開示門戶。若失道者示導正路。若欲度者示以津濟。無舟楫者而資給之。不知方域示其樂土。以如是等無量方便。顯現開道而度脫之。發如是心。我已照除長夜昏冥。世間衆事無不宣叙。又令衆生永滅癡闇得清淨眼。離衆生相及諸邪見。常樂我淨。計著衆生及福伽羅。陰界諸入。不了因果。行不善道。殺害衆生。乃至邪見不孝父母。不供養沙門婆羅門。遠離正道行不善業。誹謗正道欲壞法輪。毀菩薩衆憎惡大乘。不讚菩薩毀賢聖。行惡人造造五逆業。如是等類惡衆生。我以明淨慧光除其愚闇。令發阿耨多羅三藐三菩提心。究竟普賢菩薩所行。開十力道遠離生死。現一切智城。諸佛境界諸佛神通。具足諸力現法持力。安住諸佛平等正法。現一切佛悉同一身。復次善男子。我見貧苦老病衆生。種種方便而救濟之。復作是念。以無上法攝彼衆生。滅諸煩惱令得解脫。離生老病死憂悲苦惱惡道諸難。近善知識深入法界。離諸惡業淨佛法身。置無老病死常住法界。復次善男子。我見諸惡衆生。遠離正道趣於邪徑。著諸倒見虛妄迷惑。具行不善身口意業。種種放逸依止惡法。於非正覺爲正覺想。於正覺所非正覺想。近惡知識受諸苦惱。我見此已。無量方便除其邪惑安立正見。令於天人最爲殊勝。復作是念。令諸衆生。得出世間無上正道。不復退轉。於一切智。滿足普賢菩薩大願。得一切智。而亦不離菩薩諸地。不壞衆生性⁽⁵⁵⁾。一と応ずる。「敬善知識隨順其教。若有菩薩隨其教者。疾得阿耨多羅三藐三菩提。」と善知識を敬いその教えに隨順し、若し菩薩が居られればその教えに隨うことが、疾く阿耨多羅三藐三菩提を得ることであるとし、私は已に菩薩光明普照諸法・壞散衆生愚癡法門を成就しているので、惡衆生に大慈心を發させ、不善業の衆生に大悲心を發させ、……闇夜に鬼神盜賊が暗躍し、重雲煙塵が昏く日月を蔽い視界が遮られ、海難・雲難・山難に衆生が遭遇する時には、船となり、馬・象となり衆生を海難から度脱させ、陸地では月・星・炬火電光となる等の光明となる方便によって衆生を救護し、煩惱を除滅し死を畏れる者には

無畏法を得させ、貧窮者には富樂を得させ、山では果樹となり、流泉となり、山神となつて平地を作る等々により衆生を山難から免れさせ、……「願令衆生速滅衆苦。究竟一切安穩智道。見樂著國土衆生受諸苦惱。種種方便滅其樂著。」とか「願。令衆生除五陰著。住一切佛薩婆若境。見著聚落衆生受諸苦惱。種種方便而爲說法。令其厭離以法攝之。」とか「令一切衆生。離六入空聚超出生死。究竟得入一切智城。」と述べ、善財のために偈頌でまとめた上で、善財の「發阿耨多羅三藐三菩提心爲幾時耶。得此法門其已久如乃能如是饒益衆生。」との問いに前世譚を披露した上で「爾時玉女法慧月蓮華光者。豈異人乎。我身是也。」と答へ更に「我唯知此光明普照諸法壞散衆生愚癡法門」と語り、十地の第一段階である「歡喜地」を教示する。

本編ではこの十地は、欲界天の最高の場所であり、ここに生まれたものは、他の天の化作した欲境（欲望の対象）を自在に受用して樂を受けることされる、他化自在天王宮の摩尼寶殿上で金剛藏菩薩が佛の威儀を承けて菩薩大智慧光明三昧から起つて、「金剛藏菩薩即從三昧起。告諸菩薩言。諸佛子。是諸菩薩願決定。無有過。不可壞。廣大如法界究竟如虛空。遍覆一切十方諸佛世界衆生。爲救度一切世間。爲一切諸佛神力所護。何以故。諸菩薩摩訶薩。入過去諸佛智地。亦入未來現在諸佛智地。何等是諸菩薩摩訶薩智地。菩薩摩訶薩智地有十。過去未來現在諸佛已說今說當說。爲是地故。我如是說。何等爲十。一曰歡喜。二曰離垢。三曰明。四曰焰。五曰難勝。六曰現前。七曰遠行。八曰不動。九曰善慧。十曰法雲。是十地者。」と説かれるのである。その具体的展開が「入法界品」でなされるのである。

善財は婆娑婆陀夜天の薦めにより閻浮提摩竭提國の甚深妙德離垢光明夜天の所に赴く。善財の「我已先發阿耨多羅三藐三菩提心。而未知菩薩云何修菩薩行具足諸地。」との言に促されて夜天は「童子。乃能發阿耨多羅三藐三菩提心。問菩薩行具足諸地。善男子。菩薩成就十法。即能具足菩薩所行。何等爲十。一者得現前三昧見一切佛。二者得清淨眼見一切佛相好嚴身。三者分別了知一切諸佛無量無邊功德大海。四者無量無邊佛光明海。悉能普照一切法界。五者於一毛孔。放一切衆生數等大光明海。隨其所應度脫衆生。六者於一毛孔。悉見一切寶光焰海。七者於念念中。出一切佛變化大海。充滿法界。究竟一切諸佛境界。教化衆生而無障礙。八者出一切佛妙音聲海。轉三世佛清淨法輪。九者演說一切修多羅雲。究竟佛音。深入一切諸如來海。十者現不思議佛自在神力化度衆生。善男子。若有菩薩。具此十法。則滿足菩薩一切諸行。善男子。我已成就菩薩寂滅定樂精進法門。悉見三世嚴淨佛刹。一切諸佛及眷屬海。無量無邊佛神力海。分別了知佛名號海。轉法輪海。知彼諸佛壽命無量音聲微妙。法身清淨充滿法界。亦不著如來一切諸相。何以故。如來非過去。除滅世間一切取故。如來非未來。無所起故。如來

非現在。無生身故。如來非滅。離語言道故。如來非實。現幻法故。如來非虛妄。饒益一切衆生出興世故。如來去無所至。滅死此生彼故。如來不可壞。法性無壞故。如來一性。離語言道故。如來無性。究竟法性故。善男子。我如是了知一切如來。開發增廣菩薩寂滅定樂精進法門。照明莊嚴。深入隨順平等堅固境界。分別了知遠離虛妄。發起大悲攝取衆生。未曾捨離一心寂定。正受初禪。除滅意業。得寂智力。攝取衆生。歡喜悅樂。入第二禪。捨離生死。寂滅涅槃。觀衆生性。修第三禪。滅一切衆生諸煩惱苦。修第四禪。增長一切智菩提心願。出生菩薩一切三昧海。巧妙方便。究竟菩薩一切法門海。成就菩薩遊戲神通。出生菩薩自在所行。明淨智慧深入普門法界。善男子。我如是修習菩薩寂滅定樂精進法門。種種方便度脫衆生。在家放逸貪欲衆生。令修不淨想。不樂想。憂惱想。逼迫想。繫縛想。羅刹想。無常想。苦想。無我想。空想。不自在想。老死想。令彼衆生遠離五欲。常樂正法信家非家。出家學道思惟坐禪。爲障亂聲除鬼神怖。若於中夜欲出行時爲開門戶。光明照路除滅闇冥。讚佛法僧及善知識。又復讚歎近善知識。令諸衆生。未生惡法方便不生。已生惡法方便令滅。未生善法方便令生。已生善法方便增長。行菩薩行修波羅蜜滿足大願。出生一切智習大慈悲。欲令衆生得人天樂除滅妄想。增長善法順薩婆若。善男子。我唯知此菩薩寂滅定樂精進法門⁽⁶¹⁾。と菩薩の十法を明示し、この菩薩の十法を具えることで菩薩の一切の諸行を満足させるとし、私は菩薩の寂滅定樂精進法門を成就し三世の嚴淨なる佛刹と一切の諸佛とその眷屬海と佛の神力海とを悉く見ることができ法身の清淨にして法界に充滿していることを知っており、亦如來の諸相にとらわれないようになっていくし、初禪から第四禪と深い瞑想に入ることによって菩薩の遊戲神通を成就し、菩薩の自在の所行を出生し、明淨の智慧は深く普門の法界に入ることができる。私はこのように菩薩の寂滅定樂精進の法門を修習したので種々の方便で衆生を度脱させることができる。在家の放逸な衆生には不淨想・不樂想……を修させ、思惟し坐禪する者には、亂聲の障と鬼神の怖を除き……佛法僧及び善知識を讚し、善知識に近づくことを讚し、惡法は方便により滅させ、善法は方便で増広させ、波羅蜜を修し、大慈悲を修して衆生に人天の樂を得させ妄想を除滅し、善法を増長し、薩婆若に順じさせようと願っている。私は唯菩薩の寂滅定樂精進の法門を知っているだけであるとして、「離苦地」を教示した。

善財は甚深妙德離垢光明夜天の勧告に従って喜目觀察衆生夜天を訪ねる。その途上、善財は「專求善知識。念因善知識生諸善法。善知識者。難見難遇。見善知識。滅諸亂想。見善知識。除滅一切諸纏障礙。見善知識。得薩婆若智慧光明。見善知識。深入佛海。見善知識。得正念法雲陀羅尼。受持一切佛淨法輪雲。見善知識。具大悲海救護衆生。見善知識。智慧明淨。悉能普照諸法界海⁽⁶²⁾。」との思いを廻らしていた。

「時喜目觀察衆生夜天。以威神力加善財童子。讚善知識詣善知識恭敬供養。善知識者則是菩提。善知識則是精進。善知識者難見難遇。善知識者是不可壞力。因善知識遍遊十方斷生死流。悉能成辦一切大事。莊嚴正道。得普門法門一切無礙。見善知識。不離本處。遍至十方一切佛所。」と喜目觀察衆生夜天の威神力により善財は善智識が菩提であり精進であり、善智識に見えることも遭遇することも難しく、……との想いを抱くようになり、「爾時善財。往詣喜目觀察衆生夜天。見彼夜天在如來所。於大衆中。處寶蓮華師子之座。正受菩薩普光喜幢法門。一切毛孔出衆妙雲。其有見者欣悅無厭。」とか「又於一切毛孔。顯現喜目觀察衆生夜天。從初發心所爲功德。求善知識往詣諸佛。恭敬供養修習善根。」とか「又於一切毛孔。出無量身雲。」との不思議な現象を見聞し、「爾時善財童子。皆得見聞如上一切諸奇特事。正念思惟觀察分別。深入定智安住平等。何以故。與彼夜天先同行故。佛護念故。成就不可思議諸善根故。具足菩薩根故。生佛家故。得善知識力故。一切諸佛神力持故。盧舍那佛本願力故。善根熟故。堪受普賢菩薩行故。」との感を抱き、偈頌を以て喜目觀察衆生夜天を讚嘆する。その偈頌には

一一毛孔中	出諸化身雲	供養十方佛	念念中出生	諸佛方便力	攝取諸衆生	究竟一切法	觀察諸有海
業行莊嚴身	演說無礙法	令衆清淨故	相好自莊嚴	猶若普賢身	隨應受化者	顯現無量身 ⁽⁶⁸⁾	
彼聖轉輪王	清淨妙色身	三十二相具	八十好莊嚴	……			
彼聖轉輪王	常以正法治	統領諸山地	一切四天下	我時爲寶女	具足淨梵音	身出金色光	周照四萬里
日光既已沒	中夜閑寂然	……	……				
無量自在身	充滿於十方	大地六種動	自然出妙音	如來興出世	天人悉歡喜	一切毛孔中	出佛化身海
充滿十方界	……	……	……	……	……	……	……
初佛功德海	第二功德燈	第三寶幢佛	第四虛空智	第五蓮華藏	六無礙音月	第七法月王	八圓滿智燈
第九寶焰佛	無上天人尊	第十化音聲	我已悉供養	……	……	……	……
初佛圓滿月	第二明淨日	第三光明佛	四須彌山王	第五華焰海	第六智慧海	第七然燈佛	第八天德藏
九光明王幢	第十普智王	如是等諸佛	我已悉供養	……	……	……	……

初佛寶須彌	第二功德海	法界須彌幢	第四法須彌	第五法幢佛	第六法地佛	第七法力佛	第八虛空慧
第九光焰山	第十照明山	如是等諸佛	我已悉供養	……	……	……	……
初乾闥婆王	二壽命樹王	三功德須彌	第四寶眼佛	第五盧舍那	六光明莊嚴	第七法勝佛	第八明淨德
第九世間主	十一切法王	如是等諸佛	我已悉供養	……	……	……	……
初佛號無諍	第二無礙力	三法界光明	四一切燈王	五婆樓那天	第六衆生歸	七忍圓滿燈	八法具足燈
九光明嚴海	第十光明王	如是等諸佛	我已悉供養	……	……	……	……
初佛無量稱	第二法海佛	第三勇猛王	四功德法王	第五勝法雲	第六天冠佛	第七智焰佛	第八虛空音
第九等勝起	第十妙德光	供養諸佛已	……	……	……	……	……
初佛圓滿德	第二寂靜音	第三功德海	第四日王佛	第五功德王	第六須彌相	第七法王佛	第八功德王
第九須彌山	第十光明王	如是等諸佛	我已悉供養	……	……	……	……
初佛號華聚	第二海藏佛	第三功德起	第四天周羅	第五摩尼藏	第六金山佛	第七寶聚佛	第八寂靜幢
第九法幢佛	第十智王佛	如是等諸佛	我已悉供養	……	……	……	……
初佛寂靜幢	第二智慧幢	第三百燈佛	四功德雲王	寂靜光明王	第六明淨日	第七法燈佛	第八光焰佛
九天功德藏	第十智慧燈	如是等諸佛	我已悉供養	……	……	……	……
初功德須彌	第二虛空心	第三莊嚴智	第四莊嚴藏	五法音聲海	六持法音聲	第七化音聲	第八功德海
九功德海燈	第十功德幢	彼諸如來等	我皆悉值遇	……	……	……	……
我得明淨眼	三昧陀羅尼	於一心中	悉見最勝海	出生大悲藏	深入方便雲	……	……
我發無上心	安樂彼衆生	令至諸佛所	成滿如來力	滿足大願雲	常見一切佛	修習於正道	具足諸功德
一向廣專求	無量功德雲	法門波羅蜜	充滿諸法界	佛子我爾時	即得普賢行	分別深法界	攝取一切法
成滿一切地	三世方便海	修習無礙行	一念具佛智 ⁽⁶⁹⁾	……	……	……	……

その上で。「善男子。爾時智慧轉輪王者。豈異人乎。文殊師利童子是也。紹繼轉輪王姓如來種。使不斷絶。時王賢慧寶女者我身是也。爾時夜天覺悟我者。普賢菩薩所變化也。我於爾時。初發阿耨三藐三菩提心。發道心已。」⁽⁷⁰⁾と述べて化身としての姿を表明し、更に「善男子。我唯知此法門。」⁽⁷¹⁾として「發光地」を教示し、ここに參する妙徳救護衆生夜天を訪ねるよう勸告する。

善財が妙徳救護衆生夜天に見える情景を「爾時善財童子。正念思惟普光喜幢法門。分別深入開發顯現。隨順善知識教。一向專求見善知識身心諸根。普遊方面求善知識。思念善知識道。勇猛精進乃得值遇。同善知識一切善根。具足成就深妙方便。因善知識出生長養一切善根。發諸大願。於一切劫。不離善知識。往詣妙徳救護衆生夜天所。爾時夜天。爲善財童子。顯現菩薩教化一切世間法門境界。相好嚴身。眉間白毫相中放大光明。名曰普慧焰燈淨幢。無量光明以爲眷屬。普照一切世界。照已入善財頂充滿其身。爾時善財。即得菩薩離垢圓滿三昧。」⁽⁷²⁾と経は描く。善財の「甚奇甚特。此菩薩法門最爲甚深。此法門者名爲何等。得此法門其已久如。本修何行而致之乎。」⁽⁷³⁾に應じて妙徳救護衆生夜天は「善男子。此處甚深。一切人天聲聞緣覺所不能知。何以故。滿普賢菩薩行者境界。大悲菩薩藏境界。救護一切衆生菩薩境界。除滅一切惡道諸難菩薩境界。一切佛刹中守護一切佛法令不斷絶菩薩境界。一切劫中修菩薩行滿大願海菩薩境界。具足成就明淨慧光滅一切衆生愚癡闇障普照一切菩薩境界。於一念中明淨智慧普照三世諸方便海菩薩境界。善男子。諦聽諦聽。我當承佛神力爲汝解說佛子。乃往古世。過世界微塵等劫。有劫名離垢圓滿。世界名明淨妙徳幢。有須彌山微塵等如來。出現於世。……時彼城中有轉輪王。名曰明淨寶藏妙徳。爲大法王。治以正法。從蓮華生。具三十二大人之相。七寶成就。王有千子端正勇猛。有十億大臣。王有寶女。名妙徳成滿。端嚴姝妙目髮紺色身如天金。梵音清淨。身出光明照千由旬。彼有一女。名妙徳眼。一切諸行皆悉具足。端正殊特觀者無厭。有十億百千那由他諸采女衆。皆與聖王同善根行。身眞金色。一切毛孔皆出妙香。衆寶莊嚴超逾天女。爾時衆生壽命無量。或有不定或有中夭。形色不同長短名號。音聲善根精進方便。亦悉不同。有好有醜有讚有毀。爾時有人。謂一人言。我色端嚴汝形鄙陋。共相陵毀。作惡業已。壽命色力所受快樂。皆悉損減。……佛子。彼佛於一萬歲中。放如是等無量光明。教化衆生。滿七日已。佛神力故。一切世界六種震動。爾時衆生。於念念中見一切佛刹。皆悉清淨衆寶莊嚴。……爾時普賢菩薩。知寶華燈城王都衆生。自恃色貌陵蔑他人。化現妙身端嚴殊特。往詣彼城。放大光明普照一切。時彼聖王身之光明。諸寶光明。寶女光明。寶樹光明。日月星宿光明。皆悉映蔽。猶如聚墨在眞金山。普賢菩薩身色光明。映蔽衆光亦復如是。爾時衆生。各作是念。今此光明。悉蔽我等不復顯現。爲是梵天諸天光耶。」⁽⁷⁴⁾と離垢圓滿劫に於て佛を供養し行を修した事を明かし、その中で十科を挙げ一に総じ

て本事を挙げ、二には本生の處を顕わし、三に本生の父母、四に本生の身、五に佛出生の利益、六には普賢の引導、七に徳女の供養、八に經の聞いての益を得、九に宿因の堅固なこと、最後に会の古今を結するといふものであると答え、更に「爾時明淨寶藏妙徳轉輪聖王者。豈異人乎。今彌勒菩薩是也。時寶女妙徳成滿者。今寂靜音夜天是也。妙徳眼女者。我身是也。」と明淨寶藏妙徳轉輪聖王が今の彌勒菩薩であり、寶女妙徳成滿が今の寂靜音夜天であり、妙徳眼女が私であるとの前世譚を披瀝した上で、「善男子。我唯知此教化衆生菩薩法門。」と述べて、「焰惠地」を教示し、より甚深の悟りのために寶幢蓮華藏師子座に處する寂靜音夜天を訪ねるよう勸告する。

善財の「我已先發阿耨多羅三藐三菩提心。我依善知識。學菩薩行入菩薩行。入菩薩行地。住菩薩行住。唯願天神。爲我解說。」との言に促されて寂靜音夜天は「善男子。乃能依善知識求菩薩道。善男子。我成就菩薩無量歡喜莊嚴法門。」と応え、善財の「此法門者爲何所作。境界云何。何等方便爲何等行。」との問いに「善男子。我能清淨一切衆生心海。除滅塵垢。不斷清淨莊嚴之心。得不退境界堅固之心。不可動心。決定了知功德寶山莊嚴無染著心。常現前護一切衆生心。見一切佛諸菩薩海無厭足心。清淨菩薩正直力心。普照一切智慧海心。善男子。我爲衆生。滅除憂惱無量衆苦。令其永離諸惡色聲香味觸意法。除滅衆生愛別離苦怨憎苦及餘一切諸惡因緣壞敗大苦。住生死苦生老病死憂悲惱苦。令得如來無上快樂。一切城邑聚落衆生。我悉救護得安樂。廣爲說法。教令漸求一切種智。若見衆生在家宮殿心樂著者。爲彼說法。令知諸法眞實之性。若見衆生。與父母兄弟歡娛譙集。爲彼說法。令與諸佛菩薩共會。……善男子。我以如是等無量法施。攝取衆生。滅惡道苦。處天人樂。永離三界具諸功德。種種方便而化度之。歡喜無量。復次善男子。我常觀察菩薩大海。種種願行。種種淨身。種種淨光。種種光焰。種種諸道趣薩婆若。入種種三昧。……佛子。此菩薩無量歡喜莊嚴法門。有如是等無量境界。佛子。此法門者無量無邊。……」と答え、善財の「菩薩修何等法。得此法門。」に應じて「佛子。菩薩修行十妙法故。得此法門。何等爲十。所謂菩薩修行布施。令一切衆生海皆悉歡喜。修行淨戒。成滿諸佛功德大海。修行忍辱。了知一切諸法眞性。修行精進。於薩婆若堅固不退。修行禪定。除滅一切衆生煩惱。修行智慧。分別了知一切法海。修行方便。教化成熟一切衆生海。修行大願。於一切佛刹海。盡未來劫。修菩薩行。修行諸力。於念念中。現一切刹成等正覺。修行無盡智。了三世法無所障礙。佛子。是爲十妙法。菩薩摩訶薩。修行此法。起此法門。淨此法門。長養增廣不可沮壞。」と十波羅蜜を挙げて答え、善財の更なる「發阿耨多羅三藐三菩提心。爲久如耶。」に「佛子。乃往古世。過二佛刹微塵等劫。……善男子。汝所問我發心已來爲幾時者。如上所說。乃至來生此刹。供養盧舍那佛。如此世界供養拘樓孫佛乃至盧舍那佛。供養賢劫未來諸佛亦復如是。」と

答え偈頌でまとめた上で、「我唯成就此無量歡喜莊嚴法門。」⁽⁸⁶⁾と述べて、「難勝地」を教示し、更に妙德守護諸城夜天に教えを聞くよう勧める。善財は妙德守護諸城夜天に見え、「我已先發阿多羅三藐三菩提心。而未知菩薩云何學菩薩道饒益衆生。以無上攝法攝取衆生順如來業親近法王。」⁽⁸⁷⁾と質し、それに対して「佛子。爲救護一切衆生故。問菩薩行。爲嚴淨一切佛刹。供養一切佛。住一切劫。救護一切衆生。守護一切如來種姓。究竟十方一切法界海平等之心。充滿一切。悉聞受持一切諸佛所轉法輪。隨其所應雨甘露法故。問菩薩行。善男子。我已成就甚深妙德自在音聲法門。是故佛子。我爲勝大法師。無所罣礙。於一切法心無所著。分別如來一切法藏。安住如來大慈大悲。建立衆生於菩提心。得一切利不捨菩提心。長養一切善根。爲一切衆生調御大師。安立衆生一切智道故。……」⁽⁸⁸⁾、「佛子。我常以法施爲首。出生長養諸白淨法。一切智心堅固不動。如金剛藏不可沮壞。心常依止佛力。魔力。善知識力。心壞一切諸結業山。心能專求一切智因滿白淨法無礙法門一切種智。佛子。我以如是智慧光明淨諸衆生。無量善法饒益一切。」⁽⁸⁹⁾と応じ、更に「復次佛子。我以十行觀察法界。隨順法界攝取法界。何等爲十。所謂知法界無量。智慧無量故。知法界無量無邊。悉見一切諸如來故。知佛法界無量無邊。詣一切刹。恭敬供養一切佛故。知法界無分齋。於一切世界海。行菩薩行故。知法界不可壞。究竟如來不可沮壞圓滿智故。知法界一。如來妙音一切衆生無不聞故。知法界自然清淨。教化一切衆生滿佛願故。知法界遍至衆生。深入普賢菩薩行故。知法界一切莊嚴。普賢菩薩行自在莊嚴故。知法界不可滅。一切智善根充滿法界。令諸衆生悉清淨故。佛子。我以此十行觀察法界。增長善根。知佛奇特境界不可思議。佛子。我如是正念思惟。以一萬陀羅尼爲衆生說法。所謂攝取一切諸法圓滿陀羅尼。持一切法圓滿陀羅尼。一切法雲雷震圓滿陀羅尼。諸佛起住圓滿陀羅尼。轉一切佛名號輪圓滿陀羅尼。分別演說三世諸佛大願海圓滿陀羅尼。攝一切乘海圓滿陀羅尼。照一切衆生業海燈藏圓滿陀羅尼。一切法現前施流勇猛圓滿陀羅尼。一切智勇猛圓滿陀羅尼。以如是等萬陀羅尼。爲一切衆生分別說法。……」⁽⁹⁰⁾と十行を以て法界を觀察し、法界に隨順し、法界を攝取すること、正念に思惟し、一萬の陀羅尼を以て衆生の爲に法を説くこと、衆生の爲に聞慧の法を説くこと、衆生の爲に不可説不可説の法を敷演するとした上で、「佛子。以如是等無量方便。爲諸衆生敷演不可説不可説法。佛子。我深入此無壞法界。皆悉究竟如來正法。以無上法施攝取衆生。盡未來劫。修習普賢菩薩所行。佛子。我已成就此甚深妙德自在音聲法門。於念念中。悉能長養一切法門。充滿法界。」⁽⁹¹⁾と答え、善財の「妙哉。天神。如此法門最爲甚深。得此法門其已久如。」との問いに対して「佛子。乃往古世。過轉世界微塵等劫。有劫名離垢光明。時有世界。名法界妙德雲。有四天下微塵等香須彌山莊嚴。於蓮華中出一切佛妙願音聲。一切衆生淨業所起衆寶合成。形如蓮華清淨無垢。有須彌山微塵等衆妙寶樹。周匝

圍遶。有須彌山微塵等衆妙寶香。以爲莊嚴。有須彌山微塵等諸四天下。莊嚴世界。一一四天下。各有不可說不可說城。彼世界中有四天下。名莊嚴幢。彼四天下有王都城。名普賢華光。於彼城外有道場。名法王宮殿光明。其道場上。有須彌山微塵等佛。出興于世。其最初佛號法海雷音光明王。時有轉輪王。名離垢光明。於彼佛所守護正法。聞持正法修多羅海。佛滅度後出家學道。正法欲滅。於大劫中有惡劫起。煩惱熾盛。衆生恚怒忿毒交諍。諸比丘衆背功德利。心樂放逸。常好王論賊論女論國論海論世間之論。樂如是等種種諸論。時王比丘作如是念。如來無量阿僧祇劫修集妙法。云何此諸比丘而共毀滅。彼王比丘即昇虛空。放大光明雲。無量種色。普照十方一切世界。除滅一切衆生煩惱。立無量衆生無上菩提。復令正法於六萬五千歲而得興盛。時有比丘尼。名法輪化光。是彼轉輪王女。十萬比丘尼以爲眷屬。見父王比丘光明神變。即發阿耨多羅三藐三菩提心。得一切佛燈明三昧甚深妙德自在音聲法門。得已。身心柔軟。法海雷音光明王佛。神力自在。一切功德悉現在前。佛子。時轉輪王。隨彼如來。轉正法輪。興隆法者。豈異人乎今普賢菩薩摩訶薩是也。法輪化光比丘尼者。我身是也。我於爾時。守護佛法。建立十萬比丘尼衆。得不退轉地。又令攝取一切如來法門三昧。法輪光明三昧。又復建立入一切法海方便般若波羅蜜⁹³。」と大光明雲を放ち一切世界を普く照らして一切の衆生の煩惱を除滅し、無量の衆生に無上の菩提を立たせ正法を六萬五千年にわたつて興隆させたかつての轉輪王で出家して道を学んだ比丘は、他ならぬ今の普賢菩薩であり、轉輪王の王女で父王の光明神變を見た、法輪化光比丘尼は私自身であり、佛法を守護し、十萬の比丘尼衆を建て不退轉地を得て一切の如來法門三昧・法輪光明三昧を攝取し、一切法海に入る方便波羅蜜を建立してきたのであるとした上で、「佛子。次有如來。出興于世。名離垢法山。我得值遇。次有如來。名法圓滿光明周羅。……佛子。於離垢光明劫中。如是等須彌山微塵等如來。出興于世。其最後佛。名法界城明淨智燈。彼諸如來我悉恭敬供養聞法受持出家學道。守護佛法。於彼諸佛所。種種方便入此甚深妙德自在音聲法門。以種種方便化衆生海。復次。佛子。復有佛微塵等劫中諸佛出世。我亦悉恭敬供養。是故。佛子。一切衆生長寢生死。唯我獨覺。復能覺悟一切衆生。守護心城離三界城。入一切智無上法城⁹⁴。」と如來と諸佛の出興于世とを告げた後に「善男子。我唯成就此甚深妙德自在音聲法門。」と述べ「現善地」を教示した上で、この佛衆の中に開敷樹華という名の夜天が居られるので、彼の人に尋ねなさいと勧める。

この言葉に随つて善財は開敷樹夜天の所に趣く。夜天は衆寶香樹樓閣之内の寶樹芽師子法座に百萬諸天の眷屬に圍遶されて居られた。善財の「我已先發阿多羅三藐三菩提心。云何菩薩學菩薩行。修菩薩道趣薩婆若。唯願天神爲我解說⁹⁶」との問いに対して「善男子。我於日沒優

鉢羅鉢曇摩華皆悉還合。若諸人衆遊圓觀者。廢捨縱逸歸其家時。爲放光明。在險徑者照示平路。令彼專求一切智道。若於山巖深水曠野。在如是等種種難處。悉放光照。令免衆苦得安穩樂。又善男子。若諸衆生放逸五欲。爲其顯現老病死苦。悉令覩見捨離放逸修習善根。爲慳貪者讚歎布施。若犯戒者。安立淨戒。爲瞋恚者。讚歎大慈安立忍辱。若懈怠者。教令修行菩薩精進。若亂心者。教令修習諸禪三昧。若愚癡者。令其深入般若波羅蜜。樂小法者。教以大乘。著三界者。令住菩薩圓滿無著諸波羅蜜。若諸衆生功德羸弱。爲衆結業之所逼迫。令住菩薩力波羅蜜。順無智者。令住菩薩智波羅蜜捨離癡闇。善男子。我已成就無量歡喜知足光明法門。」⁽⁹⁷⁾と答へ、善財の「此法門者境界云何。」との更なる問いに「善男子。如來方便光明攝取衆生。佛子。若有衆生受快樂者。悉蒙佛力諸光明力。隨如來教佛威神力。隨順佛道聞佛法入佛善根。如來圓滿明淨日。如來性淨業力。普照一切。悉蒙如是功德力故。普令衆生受諸快樂。佛子。我入此法門時。正念思惟。深入盧舍那如來應供等正覺過去所行菩薩行海。善男子。我知菩薩本發菩薩地心時。見諸衆生著我所。無明覆蔽入邪見隨順貪愛。欲恚所縛心亂顛倒。慳嫉所纏貧窮逼切。於生死中受衆苦惱。不值諸佛。見如是已。發大悲心攝取衆生除諸苦患普饒益之。令得一切無染著心。於諸施物不求果報。分別了知一切因緣諸法實相。具足成就大慈大悲圓滿法蓋。普覆衆生。以知足法養智慧象。摧散一切諸煩惱山。安樂衆生。隨所應化雨甘露法。以聖法利等施衆生。得十力果無上快樂。成就菩薩通力自在。充滿法界。悉現一切諸衆生前。雨一切物。悉令歡喜充足其意。救護衆生滅生死苦不求恩報。嚴淨一切衆生心寶。悉同一切諸佛善根。增長薩婆若。教化成熟一切衆生。以無上淨法淨諸佛刹。於念念中。滿一切法界。以明淨智分別三世。充滿虛空。於一切時。轉淨法輪教化衆生。令諸衆生一切智清淨諸持。覺悟一切諸佛菩提。分別一切未來諸劫。於一切劫行菩薩行心無有二。悉能遍遊一切世界。其身容受一切刹海。悉皆攝取一切世界。分別解說一切世界種種形色。種種莊嚴種種依住。或不清淨或淨不淨。或純清淨或垢穢。或廣或狹或大或小或覆或仰。如是等諸世界海中。生菩薩行證菩薩行。於念念中。出生菩薩諸自在行。於念念中。爲衆生現三世諸佛清淨法身。佛子。盧舍那佛。於過去世菩薩行時。見諸群生無智功德愚癡所覆。著我我所無明障障。不正思惟入諸邪見。不識因果順煩惱業。不修聖道得無作法。常於生死險道流轉受種種苦。發起大悲。令諸衆生出生菩薩無量諸行。修習一切諸波羅蜜。安立堅固勝妙善根。除滅衆苦長功德藏。了知因果不違業報。知法眞實。悉分別知衆生欲樂及一切刹。守護受持一切佛法令不斷絕。滅不善法滿薩婆若。佛子。以如是等無量法施。攝取衆生。令一向求薩婆若法。修行菩薩諸波羅蜜。具賢聖利。長薩婆若。滿善根海。顯現如來無量自在。以如是等種種方便。攝取衆生。顯現如來無量功德。安立衆生於菩薩諸攝智慧。」⁽⁹⁹⁾と答へ、善財の「發阿耨多羅三藐三菩提心。其已久如。」⁽¹⁰⁰⁾との再三の問い

に「佛子。此事難知難信難入難說難得。一切諸天聲聞緣覺所不能知。除佛神力。依善知識成滿善根。淨正直心遠離詔曲。滅諸染汚。逮得普照智慧光明。哀愍衆生。降伏諸魔。拔煩惱樹。必欲成就一切種智。除滅生死憂悲惱海。得如來樂。入佛功德精進之海。安住佛地。滿足如來一切智力。究竟十力。如此人者乃能信解。能知能入能說能得。何以故。此佛境界。一切衆生及諸菩薩。所不能知。我當承佛神力爲調伏衆生。直心清淨廣修善根。得甚深心樂聞此法。爲如此等隨其所應分別解說。」⁽¹⁰⁾とこの事は知り難く信じ難く入り難く説き難く得難いと答えた上で偈頌でその義を要約した上で「佛子。乃往古世。過世界海微塵等劫。有一世界海。名明淨山。彼有如來出興于世。號智慧法界山諸方寂靜普照王如來應供等正覺。彼佛爲菩薩時。淨彼世界海。彼世界海中。有佛刹微塵等世界性。彼一一世界性中。有世界微塵等佛。出興于世。一一如來。說世界微塵等修多羅。一一修多羅中。授佛刹微塵等諸菩薩記。顯現如來種種神力無量方便。種種諸乘教化衆生。佛子。彼世界海中。有一世界性。名普門莊嚴。彼世界性中。有一世界。名曰一切寶色妙德普照一切寶華海。以爲莊嚴。衆寶爲體狀若天城。清淨嚴飾。普照一切諸佛道場。顯現諸佛變化光明。彼世界中。有須彌山微塵等四天下。彼四天下中。有一四天下。名寶山幢。彼四天下。有閻浮提。縱廣十萬由旬。彼閻浮提內有十萬大城。彼諸城中。有一王都。名堅固寶莊嚴雲燈。有一萬城周匝圍遶。人壽萬歲。時有大王。名一切法師子吼圓蓋妙音。有五百大臣六萬采女七百王子。端正勇健。爾時彼王。威德普被一閻浮提。無有怨敵。彼大劫中有惡劫起五獨熾然。爾時人民行十惡業。遠離十善死入惡道。壽命短促形色鄙陋。貧窮下賤多苦少樂。更相諍訟互謗毀。離他眷屬深入邪見。以諸貧著行非法故。風雨不時。卉木叢林百穀苗稼皆悉枯槁。彼時人民飢饉病疫。悉詣王都高聲大呼。時諸人衆無量無數圍遶王城。或舉兩手或複合掌。或號天扣地。或舉身自撲。或右膝著地。或著蔽衣眼無光色。悲聲大叫。咸言。大王。我等今者大苦大苦。飢渴寒凍疾病危困。無所歸依無救濟者。如在牢獄。種種苦逼轉趣死路。作如是等無量楚毒悲聲上訴。求自全濟安穩快樂。大王則是衆生寶藏清涼之池。善正治法大智大乘。爲大寶洲眞實利益。能與衆生天人⁽¹⁰⁾之樂。」⁽¹⁰⁾とはるかな昔に明淨山という世界海に如來が⁽¹⁰⁾出興し智慧法界山諸方寂靜普照王如來應供等正覺と號した。この如來である佛が菩薩であつた修行中にその世界海を淨めた。……閻浮提の内には堅固寶莊嚴雲燈という名の王都があり、一萬もの城に囲まれており、人の壽命は一萬歳にも達していたが、一切法師子吼圓蓋妙音という名の大王がいて五百大臣六萬采女七百王子が居り、端正で勇健であり、この王は普く一閻浮提にその威徳が行き届き怨敵は無かつたが、悪事の起くる時期があつた。その時には十の悪行を行い、十善を遠離し死しては悪道に入り壽命は短く形色は鄙陋し、貧窮下賤にして苦が多く樂は少なくなき、相諍訟し合ひ互に謗毀し合ひ、他の眷屬を離れ深く邪見に入り、

諸の貧著を以て非法を行ぜしが故に風雨は時ならず、卉木叢林百穀苗皆悉く枯槁してしまつた。その時に人民は飢饉に病み瘦せ悉く王都に詣でて高聲大呼する。人民が王城を取り囲んだ時或る者は両手を挙げ、在る者は合掌し、或いは天に號し地を叩き、……悲聲大叫して成大王に「我らは今、大變苦しんでいる。飢渴寒凍疾病に危困して、歸依する所無く、救済する者無く、牢獄に在るが如く、種種の苦に逼られ、轉た死路に趣く。」とこのような無量の楚毒の悲聲を上訴し、自らの全濟と安穩快樂とを求めべく、「大王は則ち是れ衆生の寶藏であり清涼の池であり、善正の治法であり大智大乘であつて、大寶洲と爲つて眞實に利益し、能く衆生に天人の樂を與えたまえ」と言つ。「時彼大王。聞此悲苦楚毒音聲。即得百萬阿僧祇大悲法門。一心思惟。即發十大悲語。何等爲十。所謂嗚呼痛哉。一切衆生。墜於無底生死深坑。無所歸依。我當爲彼作歸依者。悉令逮得如來之地。哀哉衆生。爲煩惱亂無有救濟。我當爲彼作救護者。悉令安立一切善業。哀哉衆生。生老病死無有救護。我當爲彼作救護者。除滅一切身心苦痛。哀哉衆生。有諸恐怖無有救護。我當爲彼作救護者。令住一切智安穩之處。哀哉衆生。爲身見疑之所覆蔽。我當爲彼作明淨燈。普照一切現明淨智。哀哉衆生。爲愚癡覆。我當爲彼作大明炬。現一切智正法之城。哀哉衆生。爲諸慳嫉諂曲幻僞。濁亂其心。我當令彼悉得無上清淨法身。哀哉衆生。爲生死長流之所漂溺。我當令彼度生死海到佛彼岸。哀哉衆生。從生盲瞽。我當令彼見眞實義同一切佛。哀哉衆生。根不調伏。我當令彼調伏諸根。除滅障礙。得一切智。時彼大王。發如是等十大悲語。擊鼓宣令。一切衆生安穩勿怖。隨汝所須我皆資給。即時頌下閻浮提內大小諸城都邑聚落。悉開庫藏。金銀珍寶衣服肴膳。香華瓔珞床席被褥。宮殿宅舍諸寶幢。夜光寶幢摩尼寶幢。醫師湯藥。種種諸器盛衆雜寶。諸金剛器盛衆妙香。種種香器盛諸衣服。種種車乘幡綵幢蓋。又復擊鼓。宣令天下一切諸城都邑聚落。今施汝等國土城邑聚落妻子。頭目齒舌心肝血肉腸胃手足一切肢節。時城東門外有大會處。名曰明淨摩尼妙德。其地平正。廣博清淨無諸雜穢。衆寶爲地雜散寶華。熏以衆香。一切香雲充滿虛空。寶樹圍遶。無量華網及諸寶網。羅覆其上。自然演出無量億那由他娑樂音聲。有如是等無量珍妙。而莊嚴之。皆是菩薩淨業果報。於彼會中王所住處。十寶爲地。十寶欄楯。十種寶樹周匝圍遶。形色金剛不可沮壞。衆寶莊嚴懸諸寶幡。白淨寶網。金鈴寶網。衆華寶網。摩尼寶網。雜衣寶網。羅覆其上。熏以名香。自然演出無量微妙歌頌音聲。時彼大王處師子座。端嚴殊妙。具大人相。肢節周備。那羅延身不可沮壞。王姓中生以正治國。於財心法悉得自在。功德無量無違命者。衆妙寶蓋以覆其上。其蓋常出無量光明。閻浮金色。覆以淨妙摩尼寶網。金寶諸鈴出和雅音宣揚善行。爾時閻浮提內。無量阿僧祇衆生。悉來歸命。讚言。大王。王是智人。天下第一。功德須彌。功德明淨猶如滿月。得菩薩心。等觀衆生普施一切。時王見已歡喜無量。於彼大衆。發大悲心善知識

心。随所求者悉令充足。而攝取之。時王即得無量快樂。釋提桓因乃至化自在天王。無量百億那由他劫。受諸快樂所不能及。他化自在天王。不思議劫受諸快樂。亦所不及。大梵天王不可說劫住梵住樂。亦所不及。乃至淨居天。無分齋劫住寂靜樂。亦所不及。復次善男子。譬如有人仁慈至孝。遭世事難。遠離父母。經歷年歲後忽遇會。瞻奉親顏欣慰踊悅。不能自勝。時彼大王。見來求者心大歡喜亦復如是。信心堅固長養菩提。何以故。此菩薩專求一切智。饒益安樂一切衆生。成滿大願。遠不善法修行諸善。救護衆生開薩婆若門。攝一切智滿衆生願。入一切佛諸功德海。壞一切煩惱魔業障山。隨順一切諸如來教。入深智流不違正道。出諸法流成滿大願。住大人法。滿足普門善根之藏。離一切惡心無所染。了達諸法猶如虛空⁽¹⁰³⁾。」と大王はその時に悲苦楚毒の音聲を聞いて百萬阿僧祇の大悲の法門を得て十の大悲の語を發した。一切の衆生は底なしの生死の深坑に墮ち歸依する所が無いので、私が當に彼らの爲めに歸依者と作つて、悉く如來の地を逮得せしむべきであると、また衆生は煩惱の爲めに亂されて救済を得ることができないので、私は當に彼らの爲めに救護者となつて悉く一切の善業を安立させるべきであると。……彼の大王はこのような十の大悲語を發して鼓を撃つて一切の衆生に「安穩にしなさい。怖れることはない。お前たちのも需める所に應じてわたしが皆支給しようではないか」と宣令し、閻浮提の中の大小の諸城・都邑・聚落に分れ散つて悉く庫藏を開くと、種々の資材があつたので、更に「天下の一切の諸城・都邑・聚落は今お前らに國土・城邑・聚落・妻子・頭目・齒舌・心肝・血肉・腸胃・手足・一切肢節を施そう」と宣令して、「復次佛子。時彼大王。見諸衆生。發一子想父母想。福田想難報恩想。師想佛想。大慈悲心悉普覆之。随其所須。衣服飲食。華香末香塗香。鬘蓋幢幡諸莊嚴具。床座被褥。舍宅宮殿園觀浴池。車乘輦象馬衆寶。所住宮殿及其眷屬。内諸庫藏城邑聚落。如是一切悉施衆生普令充足⁽¹⁰⁴⁾。」と、彼の大王が諸の衆生を見て、一子の想、父母の想、福田の想、恩を報い難きの想、佛の想を發し、大慈悲心をもつて悉く之を覆い。其の須める所に随つて、衣服・飲食・華香・末香・塗香・鬘蓋・幢幡・諸の莊嚴具・床座・被褥・舍宅・宮殿・園觀・浴池・車乘輦象馬・衆寶の住する所の宮殿、及びその眷屬内の諸の庫藏・城邑・聚落、是の如く一切を悉く衆生に施し、普く充足させた。「時彼會中有一童女。名寶光明。端正姝妙顏容無倫。身如真金目髮紺色。口演妙音身出名香。衆寶莊嚴。常懷慚愧。正念無亂。威儀庠序。於諸師長恭敬尊重。諸根寂定念慧現前。所聞諸法能持能解。宿世長養無量善根。諸妙善法潤澤其身。近善知識好樂大乘。心如虛空自安安彼。常樂見佛求薩婆若。與六十童女俱。去王不遠。一心恭敬合掌而住。作如是念。我得善利。見善知識遇善知識。於彼王所。起大師想善知識想慈悲人想。生此念時。歡喜無量。脫莊嚴具置彼王前。發如是願。今此大王。安穩無量無邊衆生。願我來世亦復如是。

大王智慧。大王正道。大王所乘。大王相好。大王財寶。無能壞者。願我來世亦復如是。隨所生處我亦隨生。時彼大王。告此女言。我今悉捨内外所珍。恣汝取之。⁽¹⁰⁶⁾と会衆の中の諸の師長を恭敬尊重し、諸根寂靜にして念慧現前し、聞く所の諸法は能く持し能く解し、宿世に無量の善根を長養し、諸の妙善をの法は其の身を潤沢し、善知識に近づき、好んで大乘を樂い、心虚空の如くにして、自ら安んじ、常に樂いて佛を見、薩婆若を求める、一童女を描いた上で、「王父名淨光 母曰蓮華光⁽¹⁰⁷⁾」の句を含む偈頌を詠み、その女は歡喜を倍增してその義を明瞭化する。「善男子。爾時一切法師子吼圓蓋妙音王者。豈異人乎。今盧舍那如來應供等正覺是也。淨光王者。今淨飯王是也。蓮華光夫人者。摩耶夫人是也。時國人者。今大衆是也。悉於阿耨多羅三藐三菩提。得不退轉。或住初地乃至十地。大願成就。住諸法門修方便道。求一切智住諸解脫。」⁽¹⁰⁷⁾と盧舍那如來・應供・等正覺と摩耶夫人のかつての姿を描くと共に現在の衆に通じる過去の宿世の國人であることを明示している。その上で「佛子。我唯知此菩薩無量歡喜知足光明法門。」⁽¹⁰⁸⁾と述べて、「遠行地」を教示し、願勇光明守護衆生夜天を訪ねるよう勧告する。

善財は開敷樹華夜天の勧告に随つて願勇光明守護衆生夜天を訪問する。大衆の中に在つて、普照摩尼王藏の師子之座に處し、摩尼王網で其身を羅覆し、光明普く一切の法界を照らし、一切の日月星宿の光明を以て其の身と爲し、一切衆生の形類色像は、悉く中に現われた。その身体は一切諸の色海身・諸の威儀身……不可壞の身・所住無くして以つて佛の行持に住する身・染汚有ること無き清淨の法身を現わしていた。「善財見已五體投地。起佛世界微塵等念。念彼天身良久乃起。恭敬合掌一心諦觀。於善知識得十種心。何等爲十。所謂得自己心。勇猛精進求薩婆若能受持故。得具一切智法心。隨順一切正教道故。得自受生心。安住無上正法門故。得同行心。共普賢菩薩諸行願故。得具一切功德藏心。長養一切白淨法故。得勇猛心。長養諸佛大精進故。得具一切諸善根心。成滿一切諸大願故。得辦一切大利益心。具足菩薩自在力故。是爲於善知識得十種心。」⁽¹⁰⁹⁾と善知識から十種の心、すなわち勇猛に精進して薩婆若を求めて、能く受持するが故に自己の心を得、一切の正教道に隨順するが故に、一切の智法を具する心を得、無上の正法門に安住するが故に、自の受生の心を得、普賢菩薩の諸の行願と共なるが故に、同行の心を得、一切の自淨法を長養するが故に、一切の功德藏を具する心を得、諸佛の大精進を長養するが故に、一切の諸大願を成滿するが故に一切諸の善根を具する心を得、菩薩の自在力を具するが故に、一切の大利益を辨ずる心を得るといふ十種の心を得るのである。更に「爾時善財。一心觀察彼夜天已。得世界微塵等菩薩共法。所謂正念共法。念十方三世一切佛故。……」⁽¹¹⁰⁾と善財はこの夜天を

一心に觀察して諸の菩薩の共法を得る。すなわち正念の共法、大慧の共法、覺悟の共法、淨心の共法、方便に隨順する共法、義を知る共法、法無畏の共法、清淨なる色身の共法、諸力の共法、無畏の共法、精進の共法、辯才の共法、無比の共法、語言の共法、妙聲の共法、淨音の共法、淨徳の共法、智地の共法、梵行の共法、大慈の共法、大悲の共法、身業の共法、口業の共法、意業の共法、莊嚴の共法、詣一切佛の共法、勸請の共法、供養の共法、教化の共法、光明の共法、三昧の共法、充滿の共法、菩薩の法門の共法、眷屬の共法、深入の共法、了心の共法、隨順の共法、充滿方便の共法、無上の共法、不退の共法、一切の愚癡を除滅する共法、不生の共法、一切の佛刹網に滿ちる共法、決定智の共法、説の如く修行する共法、專求の共法、清淨の共法、淨意の共法、勇猛の共法、淨行の共法、無礙の共法、方便の共法、淨入の共法、菩薩門の共法、護持の共法、離生の共法、安住の共法、演説の共法、禪定の共法、三昧起の共法、淨念の共法、菩薩行の共法、淨信の共法、長養の共法、不退智の共法、受生の共法、住の共法、境界の共法、無著の共法、善く法相を知る共法、容受の共法、通明の共法、神力の共法、陀羅尼の共法、一切の佛の法輪を持する共法、深入の共法、淨光の共法、明淨の共法、震動の共法、不虛の共法、聖道の共法を挙げている。善財は彼の夜天を讚歎する偈頌を述べた上で、夜天に「向所顯現不思議法。此法門者名爲何等。發道心來爲幾時耶。久如當成無上菩提。」と尋ねる。これに対して「善男子。此法門者。名隨應化覺悟衆生長養善根。善男子。我入此法門。覺悟一切諸法平等。知一切法眞實之相。遠離世間無所染著。解一切色非一非異。了色非色。而能顯現無量諸色。所謂種種色。清淨色。莊嚴色。放一切莊嚴色。普現諸形像色。顯現無量自在力色。可愛樂色。一切善起色。隨應現前色。隨應度衆生色。普照無礙色。離垢色。不壞淨身色。不思議法方便光明色。非比非無比妙絕色。非明闇色。滅一切闇色。積集一切白淨法色。功德大海之所生色。過去修行恭敬生色。淨直心生如虛空色。勝廣大色。無斷無盡色。海光明色。一切世間無所依止不可壞色。充滿一切十方無礙色。念念色。海色。令一切衆生大歡喜色。攝取一切衆生堅固色。一切毛孔中如來功德師子吼色。淨一切衆生深心色。顯現一切法義色。圓滿光明無礙色。離垢虛空等色。不依垢無著色。普照離垢法界色。不可稱色。隨眼見色。照諸方色。隨時顯現應衆生色。寂靜色。滅一切煩惱色。一切衆生功德福田光明色。見不虛色。大智光色。無礙法身滿一切色。顯現威儀不虛色。積集大慈海色。具足功德須彌山色。普照一切趣色。淨大智色。正念一切世間色。一切寶光色。淨寶藏色。不壞淨衆生色。趣薩婆若色。悅衆生眼色。一切寶莊嚴勝光明色。不取不捨一切衆生色。無決定無究竟色。顯現自在諸持力色。一切自在神足色。佛種姓

色。遠離衆惡滿法界色。悉詣一切諸佛大衆照一切色。成諸海色。善行依果色。隨化授色。一切世間見厭色。種種光明普照色。顯現三世一切色。顯現三世一切色。顯現一切海色。放一切光明海色。種種光色。過一切世間一切香光色。顯現圓滿諸日雲色。持圓滿淨月雲色。放須彌山妙華雲色。出種種鬘雲色。顯現一切鉢曇摩華雲色。一切香像雲充滿法界色。散一切末香雲色。現一切佛淨願身色。一切音聲出師子吼法界海色。普賢菩薩清淨身色。於念念中。現如是等色。充滿十方教化衆生。或見或念而得度脫。或現轉法輪。或現隨時應。或現親近。或現覺悟。或現自在神力。或現種種變化。或現不可思議自在神力變化。度脫衆生。滅不善法安立善法。滿足大願。一切智勢力。菩薩法門勢力。具足成就大慈大悲。」と、この法門に入りて一切諸法の平等を覺悟し、一切法の眞實の相を知り、世間を遠離して染著する所なく、一切の色は一に非ず異に非ざることを解り、色は非色なりと了りて、而も能く無量の諸色を顯現するとする。著名な「般若心經」の「色即不空。空不異色。色即是空。空即是色」という一節を彷彿させるがここでは、無量の諸色が種々の變化を現じて衆生を度脱し、とするのである。更に「佛子。菩薩圓滿智慧。離一切虛妄。本性清淨。一切種智。超出一切諸障礙山。隨所應化皆悉普照。佛子。譬如日性無有闇冥。但日沒已天下則闇。出則大明。菩薩圓滿明淨智日。亦復如是。離一切虛妄。普照一切教化衆生。佛子。譬如淨日出闍浮提。普照天下衆寶山樹。影現一切大海河池。衆生之類莫下對見。日亦不來入此池流。菩薩智日。亦復如是。出三有海。於佛實法虛空中行。住於寂滅。應現一切趣生處。同衆生身而化度之。實不生死無所染著。離一切虛妄無脩短想。何以故。佛子。菩薩摩訶薩。離諸顛倒。了一切世悉如夢幻。解眞實法無有衆生。圓滿大悲皆悉對現。一切衆生而教化之。佛子。譬如大船。不依此岸不樂彼岸不著中流。於大海中濟度衆生。菩薩摩訶薩。亦復如是。以波羅蜜力船。於生死海濟度衆生。不依此岸不樂彼岸而度衆生。於一切劫修菩薩行。不起劫想。亦不見劫有脩短相。佛子。譬如虛空出過法界。一切世界有成有敗。而彼虛空本性清淨。無所染汚不可沮壞。遠離恐怖一切障礙。而能普持未來諸劫。一切佛刹。菩薩摩訶薩心。亦復如是。以虛空等圓滿智慧。莊嚴其心。發起一切大願風輪。持一切衆生。令滅惡道生諸善趣。心無憂喜。安立衆生一切智道。除滅煩惱生死過患。佛子。譬如化人無有實形生老病死飢渴等苦。菩薩出生如化智慧不可沮壞妙色法身。亦復如是。於一切劫諸生死中。化度衆生而無所著。亦無恐怖。無貪無恚。除滅一切熾然煩惱。心不貪樂一切趣生。佛子。菩薩智慧。雖復如是甚深難測。我當承佛神力爲汝解說。令未來世諸菩薩等。滿足大願成就諸力。」と菩薩の圓滿なる智慧は一切虚妄を離れて本性清淨の一切種智は一切諸の障礙の山を超出して應に化すべき所に随つて皆悉く普く照すと言明し、更に「佛子。乃往古世。過世界海微塵等劫。復過是數有劫。名善光。彼有世界。名曰寶光。於彼劫中。有萬如

來出與于世。最初如來號法輪音聲虛空燈。彼閻浮提中。有寶莊嚴王都。彼有大林名善光明。於此林中。有一道場名曰善華。彼道場上。有寶蓮花師子之座。時彼如來。於此座上。成阿耨多羅三藐三菩提。爾時人民壽十千歲。殺盜姪佚妄言兩舌惡口綺語貪恚邪見。行如是等十不善道。時彼如來。於百歲中坐於道場。爲諸菩薩及諸天王并閻浮提宿植德者。而爲說法。其餘衆生待善根熟。爾時國王名曰勝光。時彼人民行十不善貪著五欲。作種種惡遠離善法。不孝父母。不敬沙門婆羅門。有無量衆生犯王治法。囚執囹圄受諸楚毒。爾時彼王。有一太子。名曰善伏。端正殊特成就妙色。具二十八大人之相。處在中宮采女圍遶。聞彼獄人楚毒音聲。聞已憂惱起大悲心。入彼獄中見諸罪人。裸形亂髮緊縛榜笞。悲號流淚苦毒無量。太子見已發大悲心。慰諭之言莫恐莫怖。我今能令汝等解脫。於是太子往詣王所。白言大王。獄中罪人願施無畏。大王。哀愍幸垂矜赦。時彼大王。召諸群臣而共參議。此事云何。群臣答言。彼諸罪人竊盜官物。謀弑大王侵犯宮人。有如是罪必應刑戮。若救彼者罪應至死。時彼太子大悲深至。救護彼故作如是言。我代獄囚受諸楚毒。願苦治我。我爲救彼不惜身命。欲令罪囚悉得解脫。所以者何若我不救此衆生者。云何能濟三界牢獄。諸在生死牢獄衆生。悉爲貪愛之所纏縛。愚癡所蔽受種種苦。身形鄙陋心常放逸。而不能知出要之道。無智慧光著諸法界。無有福慧遠離實智。染縛結垢幽閉苦獄。隨順惡魔生老病死。常爲憂惱之所逼迫。我當云何令彼解脫。我今應當捨自身命而救拔之。爾時五百大臣。咸發聲言。大王當知。如太子意。放獄囚者。毀壞王法危及我等。不治太子國不久立。王聞此言即發威怒令誅太子。王后聞之毀容降服。與千采女馳詣王所。頭面禮足。如是請言。大王當知。太子有罪。願垂慈恕賜其壽命。時彼大王即召太子。太子既至。復白王言。願垂哀赦獄囚苦人。若不矜恕。我代受苦。王言隨意。爾時太子。即入獄中。放諸罪人。代受楚毒會無中悔。一向正念一切種智。大悲爲首饒益衆生。夫人白王。願聽太子。在外半月。布施修福。然後隨王如法苦治。王即聽許⁽¹⁾。と往古の世に寶光の世界で如來が世に出興されたが、人民は「殺盜姪佚妄言兩舌惡口綺語貪恚邪見。行如是等十不善道。」の状態であり、勝光という名の國王の時でさえ「人民行十不善貪著五欲。作種種惡遠離善法。不孝父母。不敬沙門婆羅門。有無量衆生犯王治法。囚執囹圄受諸楚毒。」という状態であつた。王には善伏という太子がいた。太子は在獄者の楚毒の音声を聞き、獄中を檢分して大悲の心を起こして、王に矜赦を乞うが、在獄者は重罪人であり、太子の懇願は御前會議で拒否される。しかし太子は在獄者を救護するために「我代獄囚受諸楚毒。願苦治我。我爲救彼不惜身命。欲令罪囚悉得解脫。所以者何若我不救此衆生者。云何能濟三界牢獄。諸在生死牢獄衆生。悉爲貪愛之所纏縛。愚癡所蔽受種種苦。身形鄙陋心常放逸。而不能知出要之道。無智慧光著諸法界。無有福慧遠離實智。染縛結垢幽閉苦獄。隨順惡魔生老病死。常爲憂惱之所逼迫。我當云何令彼解脫。

我今應當捨自身命而救拔之。」と再び懇願したが、諸大臣の「如太子意。放獄囚者。毀壞王法危及我等。不治太子國不久立。」との言により王は太子を誅させようとした。王后は王に太子の殺害だけは避けてくださいとの慈悲を願った。逮捕された太子は王の前に連れ出されたが、猶も太子は復た王に「願垂慈恕賜其壽命。時彼大王即召太子。太子既至。復白王言。願垂哀赦獄囚苦人。若不矜恕。我代受苦。」と願ひ、王は「随意なれ」との言を發し、「爾時太子。即入獄中。放諸罪人。代受楚毒會無中悔。一向正念一切種智。大悲爲首饒益衆生。」という事態が生まれ、後の「願聽太子。在外半月。布施修福。然後隨王如法苦治。」との言により王は聽許した。都城の北の大林で太子は施会を持ち、來会者が食を求めれば食を与え、衣を求めれば衣を与え車乘・華鬘・塗香・末香・幢幡・繪蓋その他の寶莊嚴の具を与えた。大使拘束の期限は既に終わっていた。その時に王、諸群臣・長者らが雲集した。まさにその時に、法輪音虚空燈如來は、諸の衆生の應に化すべき時が來たことを知らせて、無量の大衆に取り囲まれて、その会に來詣された。太子をはじめとする參会者は佛の來会を見たのである。その際の如來の圓滿因緣修多羅の演説により、太子は應に化すべきに隨つて衆生を覺悟し善根を長養する法門を得た。「佛子。爾時太子。豈異人乎。我身是也。我於一切衆生。起大悲心普饒益之。不著三界。又亦不求名譽果報。捨離憍慢不輕他人。不加彼惡不貪財利。遠離三有莊嚴大乘。開一切智門。普行菩薩無量諸行。佛子。我於爾時得此法門。時諸大臣。今五百惡人調達眷屬是也。彼諸人等。佛皆教化。令發阿耨多羅三藐三菩提心。過未來世須彌山微塵等劫。成等正覺。所住世界同名寶光。國界莊嚴。父母種姓。受胎出生。棄家學道。往詣道場。轉正法輪。說修多羅。語言音聲。光明眷屬。壽命法住。及其名號。皆悉不同。其最初佛號饒益月。第二佛號大悲師子。第三佛號救護衆生。最後如來號大醫王。佛子當知。本諸罪人。我所救者。即拘樓孫等賢劫千佛。及百萬阿僧祇諸大菩薩。於無量精進妙德慧佛所。發阿耨多羅三藐三菩提心。今悉現在十方國土。行菩薩行。修習增廣。此隨應化。覺悟衆生。長養善根法門者是也。佛子。時王勝光者。今薩遮尼捷子大論師是也。時王官人諸眷屬者。即彼尼捷六萬弟子。與師俱來。共佛論義。悉降伏之。授阿耨多羅三藐三菩提記者是也。此諸人等當成正覺。世界劫號皆悉不同。」⁽¹⁵⁾とその時の太子は私に願勇光明守護衆生夜天であり、この法門を得たのであり、その時の勝光王は今の薩遮尼捷子大論師であるとする。「佛子。我於爾時救罪人已。父母聽我捨離國土妻子眷屬。於法輪音聲虚空燈佛所。出家學道。五百歲中淨修梵行。於此中間。得一萬三昧。一萬陀羅尼門。一萬諸明。一萬法藏。一萬薩婆若勇猛精進。一萬清淨忍門。一萬寂滅禪定。一萬方便般若波羅蜜。各於十方。現前對見一萬如來。出生一萬菩薩大願。長養菩薩一萬諸力。又得菩薩一萬神通。於念念中。各遊十方一萬佛刹。於念念中。各憶十方一萬佛海。見彼

如來一萬化海。普遊十方教化衆生。於念念中。見十佛世界衆生。於諸趣中死此生彼。或好或醜。或之善處或入惡道。知彼衆生諸心心法。心意所行及諸根海。行業善根皆悉明達⁽¹¹⁶⁾。」とその時に罪人を救つた後に出家學道し梵行を淨修したことを明かし、「佛子。我於爾時命終之後。即復於彼閻浮提中。王宮受生作轉輪王。彼法輪音聲虛空燈如來滅度之後。我於爾時守護正法。次值法虛空妙德王佛。次爲釋王。即彼道場。值天藏佛。次爲焰摩天王。即彼世界。值大地功德山佛。復值法輪光音聲王佛。次爲化樂天王。即彼世界。值虛空燈智王佛。次爲阿脩羅王。即彼世界。值一切法雷震王佛。次爲他化自在天王。即彼世界。值不可壞力幢佛。次爲梵王。即彼世界。值法輪化普光音佛。佛子。於彼寶光世界善光劫中。一萬如來出興于世。我悉值遇⁽¹¹⁷⁾。」とか「次復有劫。名曰日光。六十億佛出興于世。時我爲王。名大智慧。值最初相好功德山佛。復值妙音聲佛。次爲大臣。值難垢童子佛。次爲阿脩羅王。值勇猛精進佛復值究竟相好佛。次爲商人。值離垢臂佛。次爲城天。值師子行佛。次爲毘沙門天王。值天周羅佛。次爲乾闥婆王。值法上名稱佛。次爲鳩槃荼王。值光明天冠佛。恭敬供養。佛子。我諸趣受身。供養如是等六十億佛。於一一佛所。教化無量無邊衆生。我於一一佛所。得種種三昧門。種種陀羅尼門。具足諸辯。種種智慧種種法光。照十方海諸佛刹海。見諸佛刹海。如一劫中值遇諸佛恭敬供養。於世界微塵等劫一切世界中。諸佛興世我悉值遇恭敬供養。聞法受持守護正法。亦復如是。於諸佛所修此法門⁽¹¹⁸⁾。」との記述により再三の転生の狀況を明らかにしている。こうした狀況を偈頌で再確認したうえで、この夜天が到達した境地を「佛子。我唯成就此法門⁽¹¹⁹⁾。」として「不動地」を教示し、善財に「善男子。此閻浮提有一園林。名流彌尼。彼有天名妙德圓滿。汝詣彼問。云何菩薩行菩薩行。生如來家爲世間燈。盡未來劫修菩薩行心無疲倦⁽¹²⁰⁾。」とルンビニ園の妙德圓滿天を訪ねてどのように菩薩が菩薩行を行なうかを尋ねるよう勸奨する。この後の善財の求道についてはまたの機会に委ねたい。

註

(1) 渡辺照宏『お経の話』一五四頁〜一五七頁（渡辺氏は『華嚴經』の二大テーマとして、佛陀そのものの絶対的で同時に現実的でもある性格と、ボサツ修行の道）の二つをあげている。

(2) 渡辺照宏 前掲書 一五九頁

(3) 『大方廣佛華嚴經』（略称「六十華嚴」もしくは普經 以下Aという）『大方廣佛華嚴經』（略称「八十華嚴」もしくは唐經 以下Bという）『大方廣佛華嚴經』（略称「四十華嚴」もしくは貞元經 この訳本は「入法界品」のみを扱っている。以下Cという）および「サンスクリット語華嚴」（邦訳『さとりへの遍歴』「四十華嚴」と同様、「入法界品」のみを扱っている。以下Dという）A『大正新脩大藏經』第九卷 六八八頁上段 B

『大正新脩大藏經』第十卷 三三二頁 中段。その表現は「知福城人。悉已來集。隨其心樂。」となつてゐる。C『大正新脩大藏經』第十卷 六七七頁 中段。ここでは「知福城人悉已來集。普遍觀察。隨其心樂。」とあり、D 上 96〜97頁 Dの「さてそこの遍歴」では「さてそこで文殊師利法王子は、これらのダニヤーカーラの都城から集まつてきた王若男女が座に着いたのを知ると、人々の願いに応じた（身体でもつて）現れて、その威光で辺りを圧倒し、自在な大慈の威力で（人々に）喜びを与え、自在な大悲の威力で説法を引き受け、自在な智の威力で（人々が）心に願うことを考慮し」と表現してゐる。以下A 九：六八八 上 B 十：三三二 中 C 十：六七七 中 D 上 96〜97と略記する）

(4) A 九：六八八 中 B 十：三三二 中 その表現は「現自在身威光赫奕。蔽諸大衆。以自在大慈。令彼清涼。以自在大悲。起説法心。以自在智慧。知其心樂。以廣大辨才。將爲説法。」以自在智慧。知其心樂。以廣大辨才。將爲説法。」となつてゐる。C 十：六七七 中 ここでは「即以神力。威光赫奕。蔽諸大衆。以大慈力。令其衆會。皆得安穩清涼快樂。以大悲力。起説法心。普遍成就。以大智力。令其開悟。滅除一切煩惱心垢。以無礙辯。將説甚深廣大佛法。」とあり、D 上 98 ここでは「偉大な弁舌でもつて法を教示せんと欲したそのとき、……」と表現してゐる。

(5) A 九：四四四 下〜四四五 上 B 十：八四 上 C、Dは該当箇所なし

(6) 因みにこの十住に相当する段階での善財の最初に発した質問は次の様である。「引用はすべてAによる。」

〔功德雲比丘〕白言大聖。我已先發阿耨多羅三藐三菩提心。而未知菩薩云何學菩薩行。修菩薩道。我聞大師善能宣暢。唯願垂慈。具足演説。
〔A 九：六八九 下 十：三三四 上 C 十：六七九 中〜下 D 上 109〜110〕

〔海雲比丘〕白言大聖。我已先發阿耨多羅三藐三菩提心。欲度一切智慧大海。而未知菩薩云何離生死性。得不退轉生如來家。度生死海逮得如來一切智海。捨凡夫地得如來地。斷生死流。滅諸趣輪滿諸趣輪滿諸願輪。降伏衆魔具佛功德。竭愛欲海長大悲海。閉諸惡道開天人路。諸解脫門。出三界城到一切智域。捨離一切玩好之具。發弘誓願攝取衆生。〔A 九：六九〇 下 B 十：三三五 上 C 十：六八〇 下 D 上 116〜117〕

〔善住比丘〕白言大聖。我已先發阿耨多羅三藐三菩提心。而未知菩薩云何正佛法專求佛法。恭敬佛法修諸佛法。長養佛法積集佛法。熏修佛法淨諸佛法。遍淨佛法至諸佛法。我聞大聖善能教授諸菩薩法。云何菩薩修習佛法。常見諸佛未曾遠離。常見菩薩同其善根。不離佛法智慧滿足不捨大願。於一切衆生究竟其事。於一切劫修菩薩行心無疲倦。不捨佛刹。普能莊嚴一切世界。悉能知見諸佛自在。不離有爲修菩薩行。悉了如幻入一切趣。現受生死而無起滅。常聞正法未曾遠離。悉能受持諸佛法雲。不離慧光普照三世。〔A 九：六九二 上〜中 B 十：三三六 下 C 十：六八二 下〜六八三 上 D 上 126〜127〕

〔良醫彌伽〕合掌白言。大聖。我已先發阿耨多羅三藐三菩提心。而未知菩薩云何向菩薩行。云何學菩薩行。云何於生死中。常能不失菩提之心。云何得平等心。而無所趣。云何速得堅固正直之心。一切世間無能壞者。云何生大悲力。而無憂惱。云何證淨普門陀羅尼力。云何生智慧光。於一切法諸辯力。分別諸法眞實之藏。云何得正念力。受持一切清淨法輪。未曾忘失。云何得淨趣力。於一切趣普照諸法。云何得智慧力。於一切法得決定智了眞實義。〔A 九：六九二 下〜六九三 上 B 十：三三七 下 C 十：六八四 上〜中 D 上 133〜134〕

〔解脫長者〕白言大聖。我已先發阿耨多羅三藐三菩提心。欲值一切佛。欲得一切佛意。欲知一切諸佛三昧。隨順一切佛一切大願。欲一切佛法。佛一切大願。欲求一切佛智慧光明。欲自身中出一切佛。欲得諸明知一切佛自在神通。欲淨一切佛力無畏法。欲聞一切佛法心無厭足。欲受一切佛法。

欲持一切佛法。欲分別一切佛法。欲護一切佛教。欲與一切諸菩薩同。欲與菩薩同善根友。欲具菩薩諸波羅蜜。欲一切諸菩薩行。欲發菩薩清淨大願。欲得一切諸佛菩薩因緣法藏。欲得一切菩薩無量法藏智慧光明。欲得一切菩薩諸三昧藏。欲出生一切菩薩諸通明藏。欲發大悲藏。教化衆生無有窮盡。欲分別知遊戲通藏。欲分別知自在之藏。欲於自在藏。心得自在欲清淨十種藏。一向專求此諸功德詣長者所。欲滿諸願。欲超出生死。欲得自在法。欲具恭敬門。欲具方便門。欲遠離諸垢。欲清淨莊嚴。欲身心柔軟。欲調伏諸根。白言。我聞大聖善教菩薩方便正道。普照一切顯現妙法。示導津濟開正法門。除滅顛倒拔疑惑刺。心離迷垢除重闇。離諸煩惱永得清涼。棄捨諂曲超出生死。離不善根長養善根。遠離諸趣無所染著。滅一切障求薩婆若。到法王城。其心安住大慈大悲。教菩薩行修諸三昧。其心安住隨順法門。發廣大心。具足諸力。照明一切諸群生心。唯願大聖。爲我分別。云何菩薩。向菩薩道修菩薩道。既修習已。令速清淨菩薩之行。具成菩薩圓滿淨行。(A 九：六九四 上中 B 十：三三八 下三三九 上 C 十：六八六 上中 D 上 142 144)

〔海幢比丘〕合掌白言。甚奇大聖。如此三昧最爲甚深。如此三昧最爲廣大。如此三昧不可思議神力自在。如此三昧不可稱量。如此三昧慧光明淨。如此三昧阿僧祇莊嚴以爲莊嚴。如此三昧境界不可壞。如此三昧無有退轉。如此三昧普照十方一切世界。如此三昧具有無量義趣方便。大聖。其有菩薩入此三昧。能爲一切除滅衆苦。永絕地獄餓鬼畜生一切楚毒。遠離諸難。令天人趣悉得寂靜。令衆生歡喜。常樂甚深禪定境界。厭離有爲超出三界。發菩提心。長養智慧功德因緣。長養彌廣無上大悲。生大願力。照菩薩道。智慧莊嚴大波羅蜜。究竟出生大乘境界。智慧遍照普賢所行。得菩薩諸地智慧光明。具一切菩薩清淨願行。證一切智境。大聖。此三昧者。名爲何等。(A 九：六九七 上中 B 十：三四二 中 C 十：六九二 下六九三 上 D 上 170 171)

〔休捨優婆夷〕白言大聖。我已先發阿耨多羅三藐三菩提心。而未知菩薩云何學菩薩行。修菩薩道。唯願爲我具足演說。(A 九：六九八 中 B 十：三四三 下 C 十：六九五 上 D 上 181)

〔毘目多羅仙人〕白言大聖。我已先發阿耨多羅三藐三菩提心。而未知菩薩云何學菩薩行。修菩薩道。(A 九：六九九 下 B 十：三四五 中 C 十：六九七 下 D 上 193 194)

〔方便命婆羅門〕白言大聖。我已先發阿耨多羅三藐三菩提心。而未知菩薩云何學菩薩行。修菩薩道。願爲我說。(A 九：七〇〇 下 B 三四六 中 C 七〇〇 下 D 上 200)

〔彌多羅尼童女〕白言大聖。我已先發於阿耨多羅三藐三菩提心。而未知菩薩云何學菩薩行。修菩薩道。(A 九：七〇二 下 B 十：三四八 中 C 十：七〇一 中 D 上 212)

となつてゐる。質問そのものの長さばかりではなくその内容にも差異がある。

(7) A 九：四六六 中下 B 十：一〇二 下 C、Dは該当箇所なし

(8) A 九：七一二 下七二三 上 B 十：三六〇 下 C 十：七二五 下 D 上 304 經は十廻向を説く最初の善知識に青蓮華香長者を選んでいる。この長者の名前に青蓮華と香という二つを含んでおり、その二つが仏教には欠かせないし象徴的意義をもつ語であるだけに興味深い。因みに中村元編の『仏教語大辞典』での蓮華と香の二項目は次のように表記している。蓮華 ①蓮が水面の上に出て咲かせた花。仏典に出てくる蓮華は、シナ・日本における円形の葉のあるものとは異なり、楕円形をなす睡蓮をいう。普通にはパドマ (Padma 鉢頭摩、紅蓮華)・ウト

バラ (Sūpala 優鉢羅、青蓮華)・クムダ (Kumuda 拘勿頭) (ともに赤白の二種あり)・ブンダリーカ (Pundarika 芬陀利、白蓮華)の四種をいうが、またニロートバラ (Nīlotpala 泥盧鉢羅、青蓮華)を加えて五種とすることもある。単に蓮華というときには、主としてパドマまたはブンダリーカをさしている。古来インドにおいて最も重んぜられ、ヴィシヌ神話ではヴィシヌ神の臍の中から生じた蓮華の中に梵天がいて、万物を創造するという。仏教では、仏・菩薩の座を蓮華とし、その華葉が泥中で染まらないのをとって譬喩とし、『法華経』『華嚴経』などでは法門にたとえ、密教では胎藏界の標識とし、衆生本有の心を表わすという。また仏を象徴する。②釈尊の教化する世界をたとえていう。③「三角蓮華」は、女陰を寓意していると考えられる。香 ①かおり。香気に富んだ木片や樹皮から製したもので、インドでは体臭などを消すため、熱地に多い香木から香料をとり、身に塗ったり、衣服や室にたく風習がある。仏教では仏を供養する方法として焼香・塗香を十種供養・五供養力などの中に数え、香華と熟語にし、花とともに仏に供養する代表的なものとする。原料の香木の種類から梅檀香・沈香・龍腦香・伽羅・安息香、サフランの花を圧してつくる鬱金香などがあり、使用法から塗香に用いる香水・香油・香葉、焼香用の丸香・散香・抹香・練香などがある。密教では修法の種類により香を区別し、それぞれ仏教教理にたとえることもある。また法の功德を香にたとえ、戒香・聞香・施香などと称し、仏殿を香室・香殿などという。出家集団では身を飾る塗香は許されず、見習期間の僧(沙弥)の十戒のうちに、身に香油を塗ることが禁ぜられている。②嗅覚の対象。六根のうちの鼻根で嗅ぎ、六識の鼻識が識別する対象。③ヴァイシエーシカ哲学で立てる徳(性質)の第三。また平凡社の『世界大百科事典』では象徴としての蓮華の例として毘盧遮那仏のまします蓮華藏世界は香水海に浮かぶ大蓮華から出生した世界とされることを挙げている。

- (9) A 九：七一三 上 B 十：三六一 上 C 十：七二五 下 D 七二六 上 D 上 304 305
- (10) A 九：七一三 中 B 十：三六一 上 C 十：七二六 上 D 上 305 307
- (11) A 九：四八八 中 B 十：一二四 中 C、Dは該当箇所なし
- (12) A 九：七一三 下 B 十：三六一 上 C 十：七二六 中 D 上 308 前掲の『仏教語大辞典』では廻向は①方向を転じて向かう。②(さとりに)向かって進むこと。③向かわしめる。めぐらす。ふり向ける。④功德を他にめぐらし、さし向けること。ふり向けること。仏教では普通、自己が行なった善根 (Kusalanā) をめぐらしひるがえして、一切衆生のさとりのためにさし向けることをいう。自分の修めた善行・功德をさとりに向かつてめぐらす行為。⑤称名の功德を浄土にふり向けまいらすこと。思いをめぐらして浄土往生の一道に向かう。念仏を行なって浄土に生まれる因とする。……⑧仏事法要を営んで、その功德が死者の死後の安穩をもたらすよう期待すること。供養。⑨過失をなすりつけること。⑩菩薩五十二位の初め、十信の第七位。⑪菩薩五十二位の第三段階、十廻向をいう。⑬廻向文の略と十三の意味を掲げているが、その⑫の項目に当てられている。十廻向の項目では、菩薩が修行すべき五十二の段階のうち、第三十一位から第四十位までをさす。自分が修めた功德を広く衆生にまわし向けること、としている。
- (13) A 九：七一三 下 B 十：三六一 下 C 十：七二六 中 D 上 309
- (14) A 九：七一四 中 B 三六一 下 C 十：七二六 下 D 上 309 311
- (15) A 九：七一四 中 B 十：三六一 中 C 十：七二七 下 D 上 314

- (16) A 九…七一四 中…七二五 上 B 十…三六二 下…三六三 上 C 十…七二七 下…七二八 上 D 上 314
 (17) A 九…七一五 中 B 十…三六三 中…下 C 十…七二九 上 D 上 322
 (18) A 九…七二五 中 B 十…三六三 下 C 十…七二九 上 D 上 322
 (19) A 九…七一六 上 B 十…三六四 下 C 十…七三〇 上 D 上 328
 (20) A 九…七一六 上…中 B 十…三六四 下 C 十…七三〇 中 D 上 328
 (21) A 九…七一六 中 B 十…三六四 下 C 十…七三〇 中 D 上 329
 (22) A 九…七一六 中 B 十…三六四 下 C 十…七三〇 中 D 上 329
 (23) A 九…七一六 中 B 十…三六四 下 C 十…七三〇 中 D 上 329
 (24) A 九…七一六 中 B 十…三六四 下 C 十…七三〇 中 D 上 329
 (25) A 九…七一六 中 B 十…三六四 下…三六五 上 C 十…七三〇 中…下 D 上 329
 (26) A 九…七一六 中 B 十…三六五 上 C 十…七三〇 下 D 上 331
 (27) A 九…七一七 上 B 十…三六五 下 C 十…七三一 中 D 上 335
 (28) A 九…七一七 上…中 B 十…三六五 下…三六六 上 C 十…七三一 中…下 D 上 336
 (29) A 九…七一七 上…中 B 十…三六六 上 C 十…七三一 中…下 D 上 336
 (30) A 九…七一七 中 B 十…三六六 上 C 十…七三一 下…七三二 上 D 上 337
 (31) A 九…七一七 中…下 B 十…三六六 上 C 十…七三二 中 D 上 338
 (32) A 九…七一七 下 B 十…三六六 上 C 十…七三二 中 D 上 339
 (33) A 九…七一七 下 B 十…三六六 中 C 十…七三二 中…下 D 上 340
 (34) A 九…七一七 下 B 十…三六六 中 C 十…七三二 下 D 上 342
 (35) A 九…七一七 下 B 十…三六六 中 C 十…七三三 上 D 上 344
 (36) A 九…七一八 上 B 十…三六六 下 C 十…七三三 上…中 D 上 345
- 観世音菩薩 観世音は Avalokitesvara の漢訳。この原語は阿縛盧枳低湿伐羅と音訳される。漢訳は旧訳で光世音・観世音(略して観音)、新訳で、観自在・観世自在。別名では救世菩薩・施無畏者・蓮華手菩薩など。観世音とは、世間(の衆生)が救いを求めるのを聞くと、直ちに救済する、という意。観自在とは、一切諸法の観察と同様に衆生の救済も自在である、の意。救いを求める者のすがたに應じて大慈悲を行ずるから千変万化の相となるという。勢至菩薩とともに阿弥陀仏の脇侍となり、胎蔵界の曼荼羅中台八葉院の西北にあり、また蓮華部院の

主尊である。南方インドのマラーバル地方にあるといわれる摩頼耶 (Malaya) 山中の補陀落 (Potataka) が住所で、シナでは浙江省舟山列島の普陀山普濟寺、わが国では那智山をそれに当てる。観音の総体は聖観音で、千手・十一面・如意輪・准胝・馬頭〔以上 六観音〕と不空羅索〔以上 七観音〕のほか三十三観音は、『法華経』普門品に説く教えにもとづく。正月十八日に観音供が催され、毎月十八日は、朝観音でにぎわう。わが国の観音信仰は、古くは聖德太子の夢殿観音以後、上下に盛んに信仰され、平安時代には、長谷寺・清水寺・石山寺をはじめ、西国三十三所観音の流行となり、鎌倉時代には、三十三間堂に千一体の観音が並び、熊野の信仰が全国的になった。〔観世音 [Avalokitesvara] の漢訳。世音を観ずる、の意。観自在菩薩の名称。世の人びとの音声を観じて、苦悩を解脱せしめるので、かく称する。『法華経』観世音菩薩普門品には、「是の観世音菩薩を聞きて一心に名を称せば、観世音菩薩は即時に其の音声を観じて、皆解脱することを得せしめん」(一)「聞是觀世音菩薩。一心稱名。觀世音菩薩即時觀其音聲皆得解脱。」(大正新脩 大藏經第九卷 五六頁 下段) と、観世音という名称を述べているが、この文面はサンスクリット原典には存しない。〕

- (37) A 九：七一八 上 中 B 十：三六六下 三六七 上 C 十：七三三 中 D 上 346
- (38) A 九：七一八 中 B 十：三六七 上 C 十：七三三 中 下 D 上 346 348
- (39) A 九：七一八 中 B 十：三六七 上 中 C 十：七三五 下 D 上 354
- (40) A 九：七一八 下 B 十：三六七 中 C 十：七三五 下 D 上 354
- (41) A 九：七一八 下 B 十：三六七 中 C 十：七三五 下 D 上 354
- (42) A 九：七一八 下 B 十：三六七 中 下 C 十：七三五 下 D 上 354
- (43) A 九：七一八 下 B 十：三六七 下 C 十：七三五 下 D 上 354 355
- (44) A 九：七一八 下 B 十：三六七 下 C 十：七三五 下 D 上 355 356
- (45) A 九：七一八 下 中 B 十：三六七 下 C 十：七三五 下 中 D 上 355 356
- (46) A 九：七一八 上 中 B 十：三六八 上 C 十：七三六 中 D 上 357

中・地上に住む神もある。[Sdeva] ④天の神。天界の神 [divyaukas] ⑤真言密教でいう三十二種の脈管の一 [Sdivya] ⑥超人的な力があると信じられている鬼。諸天界にある天人 ⑦自然の理法。他方ではそれに神としての宗教的意義をもたせた ⑧天帝。万有の支配者。〔解説〕初期の仏教教団では、教えの中心はニルヴァーナに達することであったが、在家の信者に対しては主として「生天」の教えが説かれた。道徳的に善い生活をしたら天に生まれるという教えである。施論・戒論・生天論の三つは在家信者に対する教えの三本柱であった。この天の原語はいろいろあるが、いずれも単数形のみ用いられている。すなわち、天は一つであって、天の細かな内容規定や、階層的な区別はなかったのである。だれでも能力に応じて布施を行ない、道徳的に善であれば、死後に天におもむくとされたのである。この天の思想は、仏教独自のものではなく、当時のインドの一般民衆の信仰であって、仏教はそれを教義の中にとり入れたのである。ただ、仏教では、この世界に対してどこかに空間的に存在する天を考えたのではなく、あくまで、絶対の境地を天ということばを借りて表わしたのであるが、一般民衆は俗信のとおり、死後の理想郷に行かれる

と信じていたのであろう。後にこの点は種々の位階に分かたれるようになった。凡夫が生死往來する世界を欲界（性欲・食欲をもつ生きものの世界）、色界（欲界の上にあつて、食欲・性欲を離れた生きものの絶妙なる世界）、無色界（物質的なものがすべてなく、心識のみある生きものの世界）の三界に分けるが、この三界それぞれ天があると考え、欲界六天・色界十八天・無色界四天、合わせて二十八天を立てるようになった。この欲界六天の第二が有名な切利天 (S)Trayastimsa 三十三天) で、世界の中心、スメール山 (S)Sumeru 須弥山) の頂上にあり、帝釈王の天宮がある。頂の四方に峰があり、峰ごとに八天があるので三十三天となるのである。後世の大乗仏教における浄土の信仰は、この天の思想の発達した形である。浄土もまた、絶対の境地を表現したものであり、彼岸とは完成を意味することばであったが、天の場合と同じく、一般民衆には、死後の理想郷と受け取られたのである。また岩波の『哲学・思想事典』は以下のように記述している。天 初期の仏教では、現世において善い行いをすれば死後に天界の楽土に生まれることができるという、インド古来あつた考え方を取り入れて、人々を仏教に導く初歩的な教えとした。その後、仏教の教義の中で〈天〉はさまざまな階層的な区別をともなつて説かれるようになる。仏教では、生ある者は解脱を得るまでに三界六道を輪廻転生すると説くが、天はその〈六道〉（地獄・餓鬼・畜生・修羅・人・天）の一つとされた。また〈三界〉は欲界（欲望を持つものの住む世界）、色界（欲望は超越したが形を有するものの住む世界）、無色界（欲望も形も超越したものの住む世界）から成り、欲界には六天、色界には十八天、無色界には四天の、三界あわせて二十八天があるとされる。二十八の天は、欲界の最下の天（四大王衆天）から無色界の最上の天（非想非非想天）に至るまで、上下に重層的に並んでいて、宗教的に高い境地に達した者ほど、上の天に住むという。〈天〉という語は、サンスクリット語の Deva (神) の意味と svarga (天界) の意味を合わせ持っている。したがつたとえば、欲界の（下から）第三の天、夜摩天はヤマ (Yama) という神の住む領域であるとともに、その神そのものをさす。

(47) A 九：七一九 中 B 十：三六八 上 C 十：七三六 中 D 上 357 358

(48) A 九：七一九 中 B 十：三六八 上 C 十：七三六 中 D 上 358 359

(49) A 九：七一九 中 B 十：三六八 中 C 十：七三六 下 359 360

(50) A 九：七一九 下 B 十：三六八 下 C 十：七三六 上 D 上 362 地神についての前掲の『仏教五大辞典』の記述は次のようである。地神 ①大地の神。堅牢地神ともいい、大地を堅固ならしめる神。地天に同じ。(地天 地神・堅固地神・持地神ともいう。十二天の一つ。釈尊が成道の時、地から現われ出て魔を除き、転法輪を諸天に告げたりした仏法の守護神。雲中において左手に花を盛った鉢をささげるなど形像は種々。②Prithivi. ③金剛界四執金剛神の一つ) 因みに同書は、安住に①存立すること。②心身をゆだねる。身も心も安んずること。たもつ。身につける。③菩薩禪定の名。を挙げている。

(51) A 九：七一九 下 B 十：三六八 下 C 十：七三六 上 D 上 362

(52) A 九：七二〇 上 B 十：三六八 下 362 364 前掲の『仏教語大辞典』では燃燈仏を燃燈佛 過去世に出現して、釈尊に未來には成仏すると予言した仏。釈尊以前に現れたと伝説的に伝える二十四人の仏の一人とされている。錠光如来ともいう。と規定している。

(53) A 九：七二〇 中 B 十：三六九 上 366 中 C 十：七三六 中 366 下 D 上 366

(54)	A	九…七二〇	中	B	十…三六九	中	C	十…七三八	下	D	上	367
(55)	A	九…七二〇	中	七二一	中	B	十…三六九	中	三七〇	中	C	十…七三八
(56)	A	九…七二一	下	B	十…三七〇	下	C	十…七四〇	中	下	D	上
(57)	A	九…七二二	上	B	十…三七一	上	C	十…七四〇	下	D	上	379
(58)	A	九…七二二	上	B	十…三七一	中	C	十…七四一	中	D	上	382
(59)	A	九…五四二	下	五四三	上	B	十…一七九	中	C、D	は該当箇所なし	『エリアーデ仏教事典』で中村元は「菩薩の人生行路」とい	

- う項目を受け持ち、その中で十地の各地を次のように示している。
- (1) 初地：歓喜地（プラムディター）
菩薩は菩提と一切衆生を救い、喜び、布施波羅蜜を完成する。
 - (2) 第二地：離垢地（ヴィマラー）
菩薩は持戒波羅蜜を完成し、あらゆる不浄なものから解き放たれている。
 - (3) 第三地：明地（プラバカーリー）
菩薩は世界に（智慧の）光をもたらし、忍辱波羅蜜を完成する。
 - (4) 第四地：炎地（アルチシユマティ）
菩薩は精進波羅蜜と三十七菩提分法（バーディバクシャヤ・ダルマ）を完成し、菩薩の實踐が無明を焼き尽くす。
 - (5) 第五地：難勝地（スドウルジャヤ）
菩薩は努めて禪定波羅蜜と四聖諦の實踐を完成し、ブツダを誘惑する魔の力に簡単には降伏されない。
 - (6) 第六地：現前地（アビムキ）
菩薩は縁起（プラティートヤ・サムトパーダ）を悟る智慧を完成し、涅槃（ニルヴァーナ）が目の当たりに現れる。
 - (7) 第七地：遠行地（ドゥーランガマ）
この位に至って、菩薩の人生行路もその修行が実を結ぶ。そして今やあるがままに実相を把握することができ、實際住（ブータコーティヴィハーラ）に住して、一切衆生を救うために必要な方便波羅蜜を完成すると言われる（しかし経典には、この位において菩薩は十波羅蜜のすべてを修することが要求されている）。
 - (8) 第八地：不動地（アチャラー）
菩薩は空と有、因と非因のどちらの思考にも動かされることがなく、願波羅蜜を修して、思うがままにいかなる世界にも身を現じる。
 - (9) 第九地：善慧地（サードウマティ）
菩薩は四無礙慧（プラティサンヴィッド）を獲得し、力波羅蜜を完成する。
 - (10) 第十地：法雲地（ダルマメーガ）

空に雲が点在するように、この位はさまざま深い瞑想や精神の集中で覆われている。菩薩は宝石と見まごうばかりに燦燦と輝く身を獲得し、衆生を救うために神通を働かせる。また慧波羅蜜を完成し、菩薩の十の「救済」を手に入れる。

- (60) A 九…七二二 下 B 十…三七二 上 C 十…七四一 下…七四二 上 D 上 386
- (61) A 九…七二三 上 B 十…三七二 上 C 十…七四二 上 D 上 386
- (62) A 九…七二四 上 B 十…三七三 上 C 十…七四三 上 D 上 395
- (63) A 九…七二四 上 B 十…三七三 上 C 十…七四三 上 D 上 395
- (64) A 九…七二四 中 B 十…三七三 中 C 十…七四三 中 D 上 396
- (65) A 九…七二五 中 B 十…三七三 下 C 十…七四四 下…七四五 上 D 上 398
- (66) A 九…七二五 下 B 十…三七四 中 C 十…七四五 上 D 上 399
- (67) A 九…七二六 上 B 十…三七五 中 C 十…七四五 下…七四六 上 D 上 409
- (68) A 九…七二六 中 B 十…三七五 下 C 十…七四六 上…七四七 中 D 上 410
- (69) A 九…七二六 下…七二八 下 B 十…三七五 下…三七七 下 C 十…七四七 中…七四八 中 D 上 412
- (70) A 九…七二八 下 B 十…三七七 下 C 十…七四八 中 D 上 424
- (71) A 九…七二八 下 B 十…三七八 上 C 十…七四八 中 D 上 425
- (72) A 九…七二八 下…七二九 上 B 十…三七八 上 C 十…七四八 下 D 下 5
- (73) A 九…七三〇 上 B 十…三七九 中 C 十…七四九 下 D 下 13
- (74) A 九…七三〇 上…七三一 中 B 十…三七九 中…三八一 上 C 七四九 下…七五一 下 D 下 13
- (75) 国譯大藏經 華嚴經 下 三五七頁の脚注による
- (76) A 九…七三二 下 B 十…三八二 中 C 十…七五三 中 D 下 31
- (77) A 九…七三四 中 B 十…三八四 上 C 十…七五五 上 D 下 40
- (78) A 九…七三四 中 B 十…三八四 上 C 十…七五六 上 D 下 42
- (79) A 九…七三四 中 B 十…三八四 上 C 十…七五六 上 D 下 42
- (80) A 九…七三四 中 B 十…三八四 上 C 十…七五六 上 D 下 42
- (81) A 九…七三四 中…七三五 下 B 十…三八四 中…三八六 上 C 十…七五六 上 D 下 42
- (82) A 九…七三六 上 B 十…三八六 上 C 十…七五八 上 D 下 53
- (83) A 九…七三六 上 B 十…三八六 上 C 十…七五八 上 D 下 54

(110)	A	九…七四六	上	B	十…三九七	中	C	十…七七二	上	D	下	130	上	D	下	123 125
(109)	A	九…七四六	上	B	十…三九六	中	C	十…七七〇	中	D	下	120	上	D	下	117 118
(108)	A	九…七四五	下	B	十…三九六	下	C	十…七七〇	中	D	下	120	上	D	下	117 118
(107)	A	九…七四五	中	B	十…三九六	下	C	十…七七〇	上	D	下	117 118	上	D	下	117 118
(106)	A	九…七四四	下	B	十…三九五	上	C	十…七六九	上	D	下	112	上	D	下	107 109
(105)	A	九…七四三	下	B	十…三九四	上	C	十…七六八	上	D	下	106	上	D	下	107 109
(104)	A	九…七四三	下	B	十…三九四	上	C	十…七六八	上	D	下	106	上	D	下	107 109
(103)	A	九…七四三	上	B	十…三九三	上	C	十…三九四	上	D	下	106	上	D	下	107 109
(102)	A	九…七四二	中	B	十…三九二	上	C	十…三九二	下	D	上	91	上	D	下	91
(101)	A	九…七四二	上	B	十…三九二	上	C	十…七六八	上	D	下	91	上	D	下	91
(100)	A	九…七四二	上	B	十…三九二	上	C	十…七六六	下	D	上	91	上	D	下	91
(99)	A	九…七四一	中	B	十…三九一	上	C	十…七六五	中	D	下	87	上	D	下	87
(98)	A	九…七四一	中	B	十…三九一	上	C	十…七六五	中	D	下	87	上	D	下	87
(97)	A	九…七四一	上	B	十…三九一	上	C	十…七六五	中	D	下	85	上	D	下	85
(96)	A	九…七四〇	上	B	十…三九〇	上	C	十…七六四	上	D	下	79	上	D	下	79
(95)	A	九…七三九	中	B	十…三八九	上	C	十…三八九	中	D	上	79	上	D	下	79
(94)	A	九…七三八	下	B	十…三八八	下	C	十…三八八	上	D	下	72	上	D	下	72
(93)	A	九…七三八	下	B	十…三八八	下	C	十…三八八	上	D	下	71	上	D	下	71
(92)	A	九…七三八	下	B	十…三八八	下	C	十…三八八	上	D	下	71	上	D	下	71
(91)	A	九…七三八	中	B	十…三八八	中	C	十…七六一	中	D	下	69	上	D	下	69
(90)	A	九…七三八	上	B	十…三八八	上	C	十…七六一	中	D	下	67	上	D	下	67
(89)	A	九…七三八	上	B	十…三八八	上	C	十…七六一	中	D	下	67	上	D	下	67
(88)	A	九…七三七	下	B	十…三七七	中	C	十…三七七	上	D	下	63	上	D	下	63
(87)	A	九…七三七	上	B	十…三七七	中	C	十…三七七	上	D	下	63	上	D	下	63
(86)	A	九…七三六	上	B	十…三八六	上	C	十…三八六	上	D	下	55	上	D	下	55
(85)	A	九…七三六	上	B	十…三八六	上	C	十…三八六	上	D	下	55	上	D	下	55
(84)	A	九…七三六	上	B	十…三八六	上	C	十…三八六	上	D	下	55	上	D	下	55

(120)	(119)	(118)	(117)	(116)	(115)	(114)	(113)	(112)	(111)
A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
九…七五〇	九…七五〇	九…七四九	九…七四九	九…七四九	九…七四九	九…七四八	九…七四七	九…七四七	九…七四七
下	下	下	下	中	上	中	下	中	中
B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
十…四〇一	十…四〇一	十…四〇一	十…四〇〇	十…四〇〇	十…三九九	十…三九九	十…三九八	十…三九七	十…三九七
下	中	中	中	上	下	上	中	下	下
C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
十…七七七	十…七七七	十…七七七	十…七七六	十…七七六	十…七七六	十…七七三	十…三九九	十…三九八	十…七七二
中	中	C	上	上	C	C	上	中	中
下	下	下	中	中	下	下	上	C	D
D	D	D	D	D	D	D	C	十…七七二	下
下	下	下	下	下	下	下	下	下	132
159	158	中	151	下	中	中	中	中	
		下	下	下	下	中	中	中	
		D	152	150	151	D	下	下	
		下	下	下	上	下	D	中	
			152		D	140	下	D	
			153		下	144	下	下	
						147	137	132	
						150	140	136	

表1

六十華嚴	喜海の善知識名			
文殊師利菩薩	文殊師利菩薩	第一寄位修行相	第一法界信位	
功德雲比丘	徳雲比丘	第一寄位修行相	十住 (智)	發心住
海雲比丘	海雲比丘	第一寄位修行相	十住	治地住
善住比丘	善住比丘	第一寄位修行相	十住	修行住
良醫彌伽	彌伽長者	第一寄位修行相	十住	生貴住
解脫長者	解脫長者	第一寄位修行相	十住	方便具足住
海幢比丘	海幢比丘	第一寄位修行相	十住	正心住
休捨優婆夷	休捨優婆夷	第一寄位修行相	十住	不退住
毘目多羅仙人	毘目多羅仙	第一寄位修行相	十住	童眞住
方便命婆羅門	勝熱婆羅門	第一寄位修行相	十住	法王子住
彌多羅童女 (尼)	慈行童女	第一寄位修行相	十住	灌頂住

表2

六十華嚴	喜海の善知識名			
善現比丘	善見比丘	第一寄位修行相	十行 (行)	歡喜行
釋天王童子	自在主童子	第一寄位修行相	十行	饒益行
自在優婆夷	具足優婆夷	第一寄位修行相	十行	無恚恨行
甘露頂長者	明智居士	第一寄位修行相	十行	無盡行
法寶周羅長者	法寶髮長者	第一寄位修行相	十行	離癡亂行
普眼妙香長者	普眼長者	第一寄位修行相	十行	善現行
滿足王	無厭足王	第一寄位修行相	十行	無著行
大光王	大光聖王	第一寄位修行相	十行	尊重行
不動優婆夷	不動優婆夷	第一寄位修行相	十行	善法行
隨順一切衆生外道	遍行外道	第一寄位修行相	十行	眞實行

表3

六十華嚴	喜海の善知識名			
青蓮華香長者	優鉢羅華者	第一寄位修行相	十廻向 (大願)	教護一切衆生離衆生相廻向
自在海師	婆施羅船師	第一寄位修行相	十廻向	不壞廻向
無上勝長者	無上勝長者	第一寄位修行相	十廻向	等一切佛廻向
師子奮迅比丘尼	師子奮迅比丘尼	第一寄位修行相	十廻向	至一切處廻向
婆須蜜多女	婆須蜜多女	第一寄位修行相	十廻向	無盡功德藏廻向
安住長者	鞞瑟胝羅居士	第一寄位修行相	十廻向	隨順平等善根廻向
觀世音菩薩	觀自在菩薩	第一寄位修行相	十廻向	隨順等觀一切衆生廻向
正趣菩薩	正趣菩薩	第一寄位修行相	十廻向	如相廻向
大王天	大天神	第一寄位修行相	十廻向	無縛無著解脫廻向
安住道場地神	安住主地神	第一寄位修行相	十廻向	法界廻向